

東日本大震災記録
復興への足跡

平成24年3月

岩手県岩泉町

東日本大震災記録 復興への足跡

平成24年3月

岩手県岩泉町

町長メッセージ



平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震、東日本大震災の津波は、本町小本地区に壊滅的な被害を与え、尊い人命を奪いました。

町では被災当日から炊き出しを開始、3日後には行方不明者の捜索を完了し、できることから復旧活動を始め、5月には被災者全員が仮設住宅に入居して避難所を閉鎖することができました。並行して火災の消火活動や歯科診療の応援、被災者の入浴場所の提供、がれきの受け入れなど、近隣市町村の応援活動も展開することができました。このことは、自衛隊や消防団、全国からのボランティアなどの昼夜を問わない応援のおかげで成し得たことと改めて感謝申し上げます。

さて、三陸海岸は過去にも数多くの津波に襲われ、数多くの人々はその犠牲になりました。本町でも、明治津波では集落が自主的に高台に集団移転、昭和津波でも一部移転しています。東日本大震災に際しては懇談会や復興委員会での話し合いを重ね、三陸鉄道小本駅周辺を中心とした新しい小本のまちづくりが計画されています。

町は被災地に建築制限をかけない「漁業集落防災機能強化事業」を導入し、住民意見を最大限盛り込んだ復興計画を策定しました。3月には県内で最も早く新たな防災計画も策定しました。

小本地域の再生・復興が、ひいては本町の振興・発展につながるという強い信念のもと、不退転の覚悟で計画を推し進めていきます。

平成 24 年 3 月

岩泉町長 伊 達 勝 身

目次

巻頭カラー

写真で見る東日本大震災	5
-------------	---

I 災害の状況

1 災害の概要	18
2 人的被害の状況	19
3 住宅被害の状況	20
4 避難状況	21
5 主な被害状況	23
(1) 公共施設の被害状況	23
(2) 農業・水産業・商工業の被害状況	25
6 ライフラインなどの被害	28
(1) 電気	28
(2) 電話	29
(3) 水道	30
(4) 交通機関	31
(5) 燃料	32
(6) 物資	33
(7) 治安	34

II 応急対応の状況

1 災害対策本部の設置	35
2 国への緊急要望の状況	36
3 救援物資の状況	37
4 災害廃棄物の処理状況	38

III 被災者に対する支援状況

1 行政による支援	40
(1) 災害救助法の適用	40
(2) 被災者生活再建支援法の適用	40
(3) 被災者救援対策の実施	41
2 ボランティア活動状況	43
3 第3セクターの対応	46
4 義援金の受入状況	47
5 仮設住宅の設置と入居状況	56
6 町長との意見交換会を開催	58

IV 災害復旧の状況	
1 復興対策本部の設置	59
2 復興委員会の設置	60
3 地域懇談会	61
4 仮設店舗	63
5 仮設工場	64
6 仮設保育園	65
7 仮設校舎	66
8 複合施設	67
9 被災地の建築制限せず	68
V 今後の課題など	
1 放射能影響対策本部の設置	69
2 最前線にいた消防団	70
3 震災から1年を迎えて	73
◎ 資料編	
被害総括表	77
防災関係機関活動状況	80
地殻変動	84
津波浸水・遡上高	86
町津波防災マップ	88
県内の人的被害状況	89
震度分布図	90
震源の比較	91
津波年表	92
明治・昭和津波との比較	94
三陸自動車道	96
放射能	99



午後3時22分

津波が、不気味な真っ白い波頭を見せて茂師漁港に迫る



湾内に入ると、激しく水しぶきを上げた



午後3時23分

海面が上昇し、大量の海水が漁港に押し寄せる



波鼓ケ舞へと続く道は完全に波に飲まれた

※写真提供：佐々木功さん



小本川水門遠隔操作所モニター画像



防潮堤の上の港湾道路を越えて津波が迫る



午後3時28分

遠隔操作で水門を閉鎖したところに、大津波が襲来。大きな水しぶきが上がった



水門を越えて、大量の海水が川をさかのぼる



小本港側からも激しい波が襲う。水門の右側には流されてきた建物が見える



河川堤防を越えるほどの激流が川を上る



午後3時29分 堤防を越える
津波は小本川の堤防内を満たし、溢れ出る





眼を覆いたくなる光景。わたしたちはこの日のことを伝えていかなければならない





須賀の防潮林は完全に津波に飲み込まれてしまった





国道 455 号、三陸鉄道小本駅付近から



被災した小本地区



国道 45 号、小成地区



中野地区



役場小本支所前



大量のがれきが行方不明者の搜索を困難なものにした



須賀の防潮林跡にはがれきの山が築かれた



小本中学校の屋内プール（写真中央）の惨状が津波のすさまじさを物語る



中野バイパス岩泉龍泉洞インター付近に整備された仮設住宅小本団地

大地震、そして巨大津波が小本を襲った

平成 23 年 3 月 11 日（金）午後 2 時 46 分ごろ、最大で震度 7 の大地震が発生、本町でも震度 4（計測震度 4.2）を記録しました。直ちに町では災害対策本部を設置。

気象庁は午後 2 時 49 分、岩手、宮城、福島 の 3 県に大津波警報を発令。震源地は三陸沖で、震源の深さは約 10 キロ（のちに 24 キロと修正）牡鹿半島の東南東 130 キロ付近、マグニチュードは 7.9 と推定（のちに 8.8、9 と修正）。関東大震災のマグニチュード 7.9 を上回る国内観測史上最大級、世界でも 5 指に入る大地震となりました。

間もなく町の災害対策本部は避難指示を発令し、消防団員が対象地区の住民を避難誘導しました。

電気の供給は地震と同時に途絶え、電話も町内全域が不通になり情報が遮断されました。現場がどのような状況なのか、何が必要なのか、情報の闇の中、手探りの活動が続きました。

唯一の情報入手手段となったラジオは各地で観測される津波の状況を次々と悲鳴にも似た声で報じていました。午後 2 時 54 分、大船渡市で 20^{センチ}、同 3 時 21 分、釜石市で 4.1^{メートル}、宮古港で 4^{メートル}。そして、3 時 28 分ごろ、小本を巨大津波が襲いました。

津波は防潮林の松をなぎ倒し、水門を越えて小本、中野、茂師、小成に流れ込み、壊滅的な被害をもたらしました。

原因となった断層は長さ約 400 キロとみられ、東北から関東にかけての広い範囲で津波や火災が発生し、多くの死者や負傷者を出しました。最大で震度 6 弱の強い揺れを伴う余震が断続的に続き、眠れぬ夜を過ごしました。

I 災害の状況

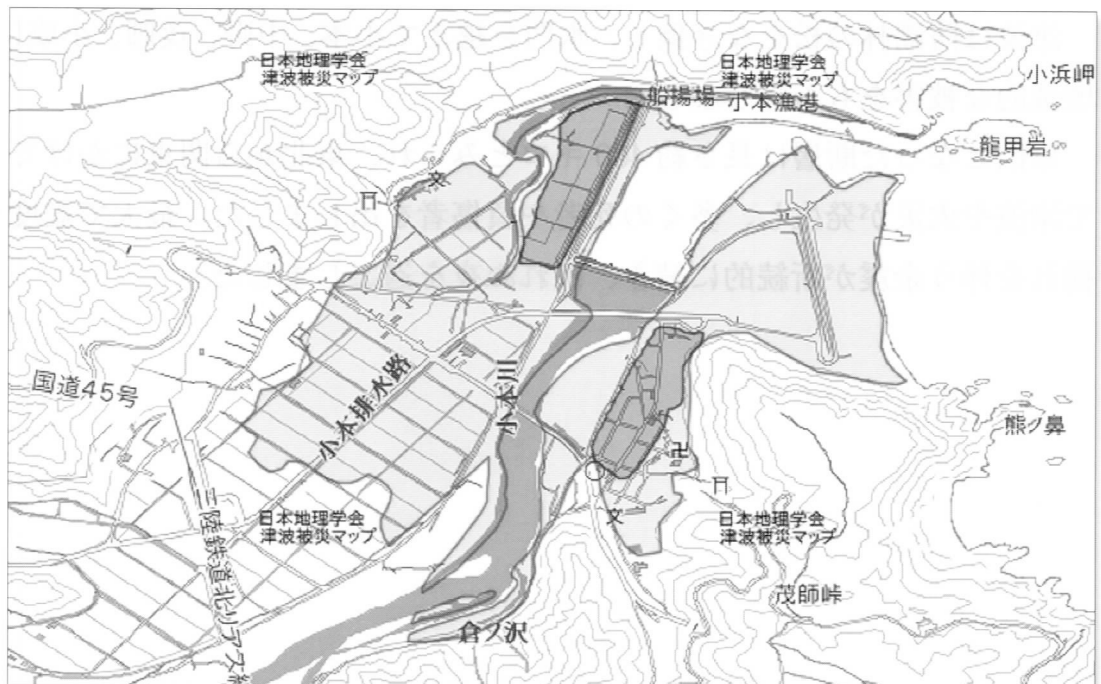
1 地震と津波の状況（気象庁発表）

- ◆発生日時……平成 23 年 3 月 11 日（金）午後 2 時 46 分ごろ
- ◆震源地……三陸沖北緯 38 度 6.2 分、東経 142 度 51.6 分、
牡鹿半島の東南東約 130km 付近
- ◆震源の深さ……約 24 km
- ◆地震の規模……マグニチュード 9.0（暫定値）
- ◆震度……4 / 岩泉（計測震度 4.2）
- ◆警報などの発表……

平成23年 3月11日	午後 2 時49分、岩手県沿岸に大津波警報発令
同日	午後 2 時54分、防災行政無線で避難指示
同日	午後 3 時28分ころ、津波最大波到達
12日	午後 8 時20分、津波警報に切り替え
13日	午前 7 時30分、津波注意報に切り替え
同日	午後 5 時58分、津波注意報解除

- ◆津浪遡上高……小本 20.4 メートル、茂師 24.6 メートル

津波被災範囲



（資料：日本地理学会）

2 人的被害の状況

死亡者数……11人

(敬称略)

氏名	年齢	生年月日	住所	被害場所	被害状況
三浦 昭 八	77歳	S08.12.18	小本字小本 14-1	小本	
箱石 靖 江	56歳	S29.12.22	小本字小本 48	小本	
箱石 武 雄	81歳	S04.05.03	小本字小本 14-1	小本	
穂高 鶴 治	71歳	S14.09.27	褰野字愛羅 34	田野畑村	
藤田 剛 志	37歳	S48.09.20	岩泉字和川原 11-1	宮古市田老	消防署勤務中
金澤 美 樹	27歳	S58.11.01	小本字小成 172-2	宮古市田老	田老で勤務中
佐々木 キヨエ	91歳	T08.11.01	下有芸字立石 31	宮古市田老	
田村 英 樹	46歳	S39.10.25	岩泉字横道 3-12	宮古市田老	消防署勤務中
川代 清 一	58歳	S28.06.11	門字見内川 99-134	宮城県石巻市	トラック運転中
三浦 暢 之	29歳	S57.02.07	小本字小本 6-26		(関連死)
武田 通 孝	34歳	S51.12.05	中里字出畑 6-2		小本



合同お別れ会で式辞を述べる伊達町長

4月10日、町民会館で町主催の東日本大震災犠牲者合同お別れ会がしめやかに営まれ、遺族など約600人が参列。献花で9人の冥福を祈りました。祭壇には9人の遺影が飾られ、宮古消防署田老分署所属の消防署員として水門を閉める作業にあたり、避難途中で津波に巻き込まれた田村英樹さん（46歳）の長女、紗也香さん（14歳）が遺族代表であいさつし、「最後まで人の命を救おうとした消防士がいたことを忘れないでください」と訴えました。式辞で伊達町長は「志半ばで亡くなった方々の郷土への思いを受け継ぎ、次の世代に希望をつながなくてはいけない」と述べました。

3 住宅被害の状況

被害家屋数

被害程度	棟数	備考
全壊	177	流出 80、全壊 97
大規模半壊	10	
半壊	13	
一部損壊	8	地震による 6 棟を含む
合計	208	

注：住居以外を含むと 387 棟が被災

被害額（課税標準）…約 4 億 8 千万円

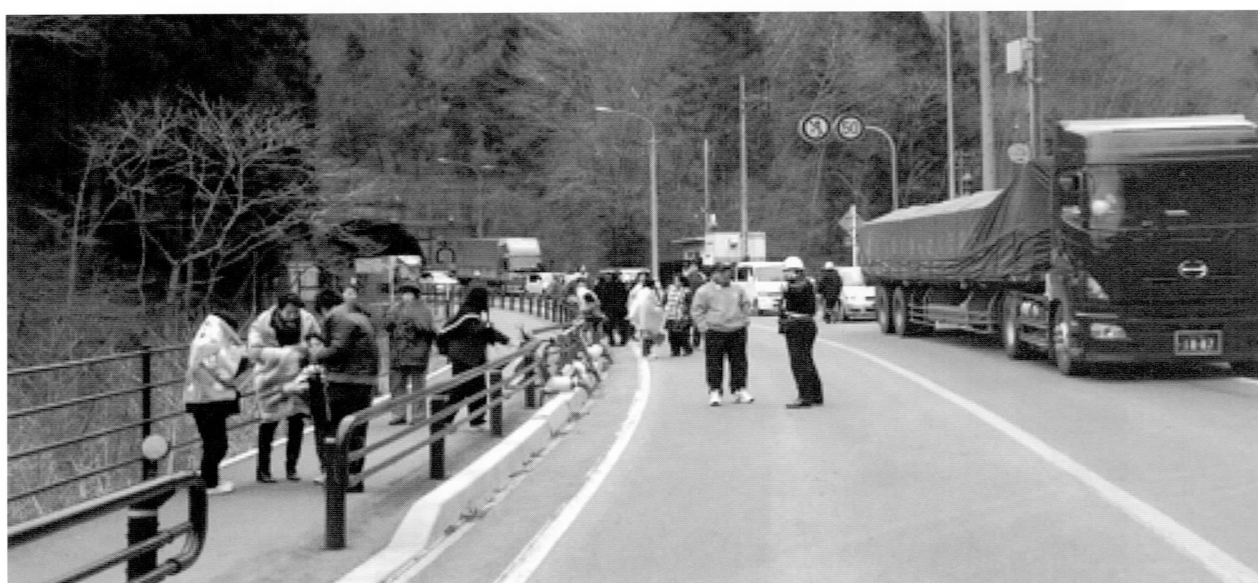


被災した小本地区

4 避難状況

- ◆町災害対策本部の設置…平成 23 年 3 月 11 日（金）午後 2 時 46 分
- ◆大津波警報発令…午後 2 時 49 分
- ◆避難指示発令… 3 月 11 日（金）午後 2 時 50 分
- ◆避難指示解除… 3 月 13 日（日）午後 5 時 58 分
津波注意報解除、同時刻避難指示解除
- ◆避難所数・避難者数…12 カ所、487 人（最大時・ 3 月 12 日）

避難場所	3 月 12 日	4 月 25 日
岩泉町民会館	130	24
ふれんどりー岩泉	20	-
どんぐり苑	40	12
龍泉洞温泉ホテル	103	150
ふれあいらんど岩泉コテージ		35
小成コミュニティセンター	10	-
箱石イク宅付近	18	-
ホテル龍泉洞愛山		-
小本小学校大牛内分校	98	
茂師公民館	40	
中島地区集会施設	11	
済生会岩泉病院	17	
合 計	487	221



津波到達直後、国道 45 号に避難中の住民

児童救った避難階段

児童 88 人の危機を救ったのは、2 年前に設置された 130 段の避難階段でした。

小本小学校は、背後に国道 45 号が横切り、高さ十数メートルの切り立ったがけに阻まれ、逃げ場がありませんでした。数年前の避難訓練の際、伊達町長が「児童が津波に向かって逃げるのはおかしい」と国土交通省三陸国道事務所に掛け合っ変更。平成 21 年 3 月に国道 45 号に上がる 130 段、長さ約 30 メートルの避難階段が完成しました。

児童は予想外のスピードで迫る津波から逃れるため、避難階段を必死に駆け上り、高台の広場に逃げ込みました。



完成式のあと、避難路を確かめる児童たち

5 主な被害状況

(1) 公共施設の被害状況

(単位:千円)

担当課	施設名	被害金額	内訳
総務課	役場小本支所	32,750	
	防災行政無線	18,000	
町民課	老人センター	1,263	
	窓口証明システム	861	
保健福祉課	小本保育園	46,899	
経済観光交流課	茂師トイレ	1,500	
地域整備課	公営住宅	30,000	小本団地 (3棟7戸)
消防防災課	小本消防屯所	16,638	
教育委員会	学校	402,374	小本小学校 69,237
			小本中学校 169,369
			小本中学校教員住宅 37,768
			小本中学校プール 126,000

●小本小学校

津波により浸水、損壊被害

【被害状況】

・校舎1階 928㎡、屋内運動場 692㎡

床上浸水(土砂流入) 損壊



浸水した小本小学校

- ・屋外運動場 7,340㎡
浸水(土砂、がれき流入) 損壊

【対応状況】

- ・卒業式：津波被害により自校での卒業式ができないため、3月22日に町民会館大ホールで実施しました。
- ・授業対応：岩泉小学校の3階空き教室を仮校舎として4月14日に入学式を行い、1学期の授業を開始。児童はスクールバスで送迎しました。

●小本中学校

津波により浸水、損壊被害

【被害状況】

- ・校舎1階部分 1,127㎡
床上浸水(土砂、がれき流入) 損壊
- ・屋外運動場 14,019㎡
浸水(土砂、がれき流入) 損壊
- ・上屋付プール 700㎡
全壊



大量のがれきが押し寄せた小本中学校

【対応状況】

- ・卒業式：津波被害により自校での卒業式ができないため、3月22日に町民会館大ホールで実施しました。
- ・授業対応：岩泉中学校の3階空き教室を仮校舎として4月14日入学式を行い、1学期の授業を開始。生徒はスクールバスにより送迎しました。

●小本中学校教員住宅

教員住宅3棟計180㎡が全壊

入居教員は、他の教員住宅に移転しました。

●小本地区消防格納庫

壁などが破損しました。

(2) 農業・水産業・商工業の被害状況

●農地

4月16日、小本浜漁業協同組合の会議室で、津波で被災した農家のための「水田などの塩害対策説明会」が行われ、50人余りの農家が参加し、宮古農業改良普及センター岩泉普及サブセンターの職員から今後の対策について説明を受けました。

被災した小本地区の水田には小本川を逆流した海水が流れ込み、4センチ近い泥が堆積し、取水口が破壊されました。



津波で浸水した水田

●漁船・施設

漁港

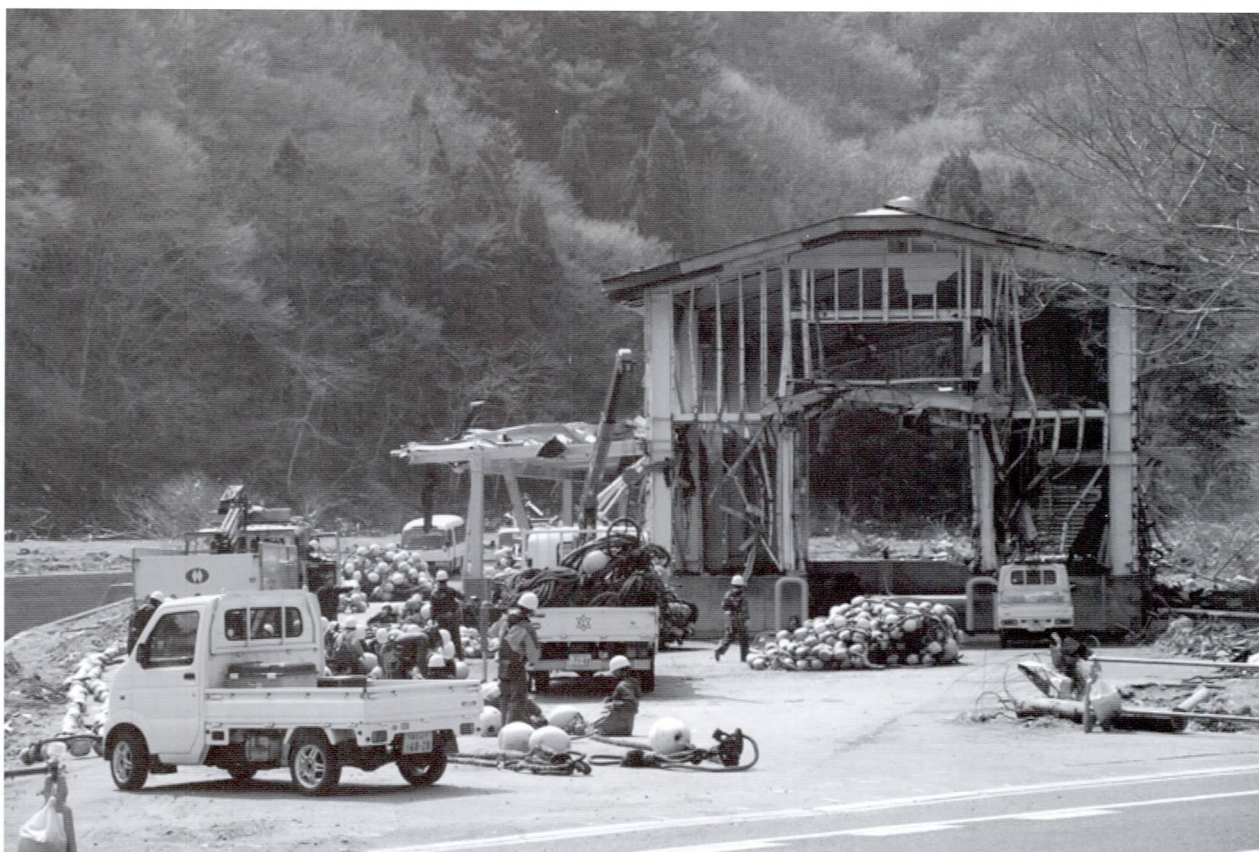
- ◆小本漁港施設：約11億5千万円
- ◆海岸保全施設（防潮堤、水門1基、門扉2基ほか）：約5億7千万円

漁船

- ◆登録漁船292隻中266隻、92%の漁船が被災：約4億4千万円

漁業

- ◆水産施設：3億9400万円
- ◆定置網：1億5千万円、川留漁具一式：3千万円、個人施設21箇所4700万円
- ◆養殖施設93台：約2千万円
- ◆水産物（養殖わかめ89ト、3千万円、養殖こんぶ20ト、3千万円）



津波で散乱した漁具の片付け作業に追われる小本浜漁協関係者

●被災地の事業所数

調査区	事業所数	調査区	事業所数
裊野	4	鉦	1
中里	3	家の向	5
下中野	4	小成	1
家の向	2	小本	26
小掛	2	本茂師	1
上中野	1	内の沢	1
大牛内	5	中島	2
中野	6	小本地区合計	72
南中野	8		

平成 21 年 7 月現在：経済センサス（グレー部は被災エリア）

●被災中小企業者などに対する支援

岩泉商工会小本地区会員のうち約 20 業者が被災。4 月 22 日に中小企業整備機構による仮設店舗などの整備について、説明会を実施しました。

●雇用対策

被災者を優先的に雇い入れる意向を持つ求人情報を避難所などに掲示しました。

雇用保険の支給に関する相談などは、宮古労働基準監督署と連携して避難所で特別出張労働相談会を開催しました。

6 ライフラインなどの被害

(1) 電気



小本地区の電気復旧作業

県内の停電戸数の推移（東北電力岩手支店調べ）

月	日	停電戸数	
3月	11日	770,000	数値は概数
3月	12日 午後6時	725,394	県北や盛岡市の一部で復旧
3月	13日 午後7時	200,000	数値は概数、沿岸部の復旧見通し立たず
3月	14日 午後6時	125,500	数値は概数
3月	15日 午後6時	91,107	
3月	16日 午後6時	70,583	
3月	17日 午後6時	57,890	家屋の倒壊、流失地域を除き18日の復旧を目指す

(2) 電話

●途絶えた通信

地元紙は、総務省消防庁情報として「岩泉町は町役場、消防本部とも連絡が取れない状態となっている」と報じました。

町内は地震発生と共に停電し、電話、インターネットも不通となりました。この復旧は電話が3月30日、電気は4月1日までかかりました。

沿岸地区復旧のための支援隊は200～300人。当町には50人程度が宿泊し、復旧作業に従事しました。

地震、津波により、沿岸部の光ケーブルが破断。また町整備携帯電話基地局（33局）のサービス開始の時期が遅れました。



町役場に設置された仮設電話で連絡をとる被災者

(3) 水道



(単位：千円)

担当課	種 別	被害額
上下水道課	簡易水道施設	40,000
	公共下水道	1,000

●各水道施設の断水対応

簡易水道 13 施設のうち 6 施設の一部地区で停電により断水。3 月 13 日にはほぼ全域で復旧しました。

小本、中野地区については、津波により給水装置が流失して断水。3 月 18 日に中野地区が、3 月 28 日には小本地区もそれぞれ復旧しました。

●水道施設の復旧

茂師漁港付近で配水管 400 メートルと橋梁添架箇所 2 カ所のうち 1 カ所が流失。1 カ所は破損。小本地区では、港湾方面への配水管 160 メートルと漁港方面への配水管 200 メートルが洗掘を受け破損しました。

●停電によるマンホールポンプ内の揚水対応

長時間の停電によるマンホールポンプ内の揚水作業が必要となり、可搬式発電機を使用して 9 カ所のマンホールポンプ場を巡回して、昼夜の揚水作業を実施しました。

●下水道の復旧

岩泉横道地区の管渠マンホールが数センチ隆起しました。(50 メートル、マンホール 2 基)。排水管路に多少の蛇行が見られたものの、排水機能には支障ありませんでした。

(4) 交通機関

(3月20日現在)

種別	路線名	内 容
鉄道	J R 岩泉線代行バス	1 便運行
	三陸鉄道北リアス線	小本～宮古間、運休
		野田～久慈間、運行
バス	J R 岩泉・龍泉洞線	限定運行
	県北バス小本～宮古	運休
	町民バス各線	減便運行

東北新幹線や県内の J R、三陸鉄道、I G R いわて銀河鉄道は全線がストップ。高速道も一部を除き通行止めとなりました。

花巻空港は災害救援機だけを受け入れました。

東北新幹線は盛岡―北上間などで高架橋柱や橋脚の被害が判明。県内 J R 線、三陸鉄道、I G R いわて銀河鉄道は3月15日も全線で運休しました。

●町民バス

小本線小本バス停待合所が津波で流失しました。

◆設置場所…小本字須賀 3-2 ◆床面積…平屋 4.49㎡アルミ構造

●三陸鉄道

三陸鉄道は3月16日から、北リアス線久慈―陸中野田間（約11キロ）で1日3往復の運行を始めました。大震災の「復旧支援列車」とし、3月22日までは運賃を無料としました。

(5) 燃料

●ガソリンは被災地優先 最小限の利用を呼び掛け

ガソリンなどの供給不足が続く中、県内のガソリンスタンドは、給油をする車や灯油を確保する人で混雑しました。県石油商業協同組合は、石油製品の供給は被災地を優先するため、一般には最小限の利用を呼び掛けました。

石油元売り各社からの供給のめどがつかないため、各給油所は1回の給油量や金額を制限。台数も絞って販売しました。

●畜産酪農にも深刻な影響

燃料不足で、畜産酪農に深刻な影響が出ました。八戸や石巻の飼料工場が津波で被災し、飼料の供給が停滞。ガソリン不足で農家への飼料配給、肉や牛乳などの集出荷もストップ。農家は給餌を切り詰めて対応しましたが、燃料不足解消のめどは立たず、農家経営や食料供給を圧迫しました。

●JR貨物が石油列車を運行

日本貨物鉄道（JR貨物、本社東京）は3月17日、東北に向けて石油を積んだ貨物列車を運転すると発表。18日に神奈川県を出発し、19日夜に盛岡に到着。東日本大震災で燃料不足に苦しむ被災地を支援しました。列車は18両編成。1回で軽油387キロリットル、ガソリン405キロリットルの計792キロリットル（タンクローリーおよそ40台分）を輸送しました。



給油を制限したガソリンスタンド

(6) 物資

東日本大震災による燃料不足と高速道の閉鎖などで物流が停滞しスーパーなどの商品が品薄となりました。

連日の強い余震への不安感もあり、消費者は「買える時に買っておく」と買いだめ傾向になりました。一方、事業者は商品調達に奔走。「十分ではないが供給は回復傾向にある。必要な分だけの利用を」と消費者に冷静な行動を呼び掛けました。

地震でJRが運休したことで商品のコンテナ輸送が不可能。ガソリン不足に加え、東北道の閉鎖で長距離の商品調達にはコストが掛かるため、小売店は厳しい商品調達を迫られました。

不足した物資

石油ストーブ（電気を使用しないもの）、灯油用ポリタンク、燃料携行缶、乾電池、懐中電灯、飲料水用ポリタンク、トイレットペーパー、生理用品、おむつ、粉ミルク、食料、カップ麺、缶詰、たばこ、ほか。



商品がほとんどなくなった町内のスーパーマーケット

(7) 治安

東日本大震災で、被災地の治安悪化が懸念されました。大津波で倒壊した家屋を物色したり、車からガソリンを抜き取ろうとする不審者が各地で目撃され、銀行の現金自動預払機（ATM）から現金を奪おうとしたとして逮捕者も出ました。

県内では、物品やガソリンの窃盗被害が相次ぎました。避難所の前で堂々とポンプ式の専用機材を使いガソリンを抜き取る悪質な例もあり、被災地の住民は不安な毎日を過ごしました。

バールを持った3人組の若い男が数日間にわたり住宅地を物色しているのが目撃されたり、パソコンや液晶テレビなどが盗まれているという情報も流れました。「県外ナンバーの車や、知らない人が来ている」と訴える声多数。警察や消防団、自主防災組織が夜間巡回などで警戒しました。



町のバスで避難所から自宅に通う被災者

Ⅱ 応急対応の状況

1 災害対策本部の設置

- ◆設置日時……平成23年3月11日（金）午後2時49分
（大津波警報発表時刻と同時刻）
- ◆廃止日時……平成23年8月31日（水）午後5時00分
- ◆廃止理由……おおむね災害応急対策が終了したと認められることから（根拠：
岩泉町地域防災計画第3章第1節第2の2（4）イ）
 - ①被災者への物資支援が一定の成果を収め、仮設住宅入居者の生活が安定してきたこと。
 - ②住民の健康管理体制が整い、被災者の心身のケアが十分となったこと。
 - ③交付された義援金や町見舞金の支給が終了したこと。
 - ④廃止について8月24日、29日に被災者へ説明を行い、内諾を得ていること。
 - ⑤5月31日をもって避難所を閉鎖していること。

◎参考：県・近隣市村災害対策本部の状況

岩手県：設置日時……3月11日（金）午後3時45分

廃止日時……8月11日（木）午後3時45分

宮古市：継続（他市町避難者2世帯2人、避難所扱いの市営住宅入居中につき
継続。市民の避難所生活なし）

田野畑村：廃止日時……8月12日（金）午後5時

普代村：廃止日時……8月17日（水）正午

2 国への緊急要望の状況

年月日	要望先	場所
平成23年3月18日	県知事	被災地訪問の対応・町内
3月28日	前農水大臣ほか	宮古漁協
4月15日	総務副大臣	道の駅いわいずみ
5月15日	管元総務大臣	道の駅いわいずみ
5月22日	枝野官房長官	小本
5月29日	内閣府	小本
7月29日	民主党県連本部	盛岡市
8月4日	宮古三陸国道事務所	宮古市
8月8日	国土交通省ほか	東京都
8月9日	東北地方整備局、東北農政局	仙台市
11月5日	平野復興担当大臣	小本、道の駅いわいずみ



平野復興担当大臣が仮設住宅小本団地を訪問

3 救援物資の状況

県内の被災地では、道路事情が悪い避難所を中心に食料や物資の到着が遅れました。道路損壊による通行止めで陸路輸送に支障が出ているのに加え、ガソリン不足も影響。全国から救援物資は続々と届きましたが、被災現場に十分な供給ができない状況でした。

花巻空港と釜石港に到着した他県からの多くの救援物資が3月16日、避難所などに運ばれず足止めされました。受け取る本県側と送り主の政府、他県との連絡がうまくいかないのが主な要因とみられます。

花巻空港には政府や他県からの救援物資が空輸で続々と到着。しかし、現場搬送用のトラックが待ち構えることはなく、敷地内の倉庫に保管されました。

県は被災直後、同空港を救命活動拠点とし、物資の搬送拠点は滝沢村滝沢の岩手産業文化センターを指定しました。しかし、他県にその事実が十分に伝わっておらず、同空港に物資が押し寄せました。

釜石港には16日、国土交通省の船舶「清竜丸」が食料や毛布、発電機などを乗せて接岸。しかし、同日のうちに港に下ろしたのは小型重機と発電機だけ。被災者が待ちわびる食料は17日以降に見送りました。



龍ちゃんドームを満たした全国からの救援物資

4 災害廃棄物の処理状況

●宮古市のがれき、小本に搬入

6月23日、宮古市の震災がれきの一部が小本の防潮林跡のがれき仮置場に搬入され始めました。これは宮古市にがれき置き場が不足し、市内での移動は困難。水産業の復興を促すため町の協力を得て県が実施したもので、震災がれきが自治体の境を越えるのは県内で初めてのことでした。

県によると、宮古市の市場そばの県有地約1万平方メートルに積まれた約3万5千トン、小本の仮置き場へ移動。トラックと船で約2カ月かけて運び終わりました。災害廃棄物処理のため経費は全額、国の補助対象です。

宮古市ではがれき推計85万6千トンの仮置き場として30ヘクタールが必要なのに対し、確保できたのは18ヘクタール。がれきを市内で移動するのは難しい状況にありました。



防潮林跡のがれき仮置場



宮古市のがれきを積んだ船が小本港に入港

6月29日午前9時、宮古市のがれきを積んだ第18新幸丸（1,573重量トン・全長70メートル）が小本港湾に着岸。船は7時30分に宮古港を出発し、1時間半かけて小本に着きます。積んでくるがれきは約1,100m³。船が下ろしたがれきを仮置き場まで運ぶ作業は、夕方までかかりました。

●震災がれき、盛岡市へ

11月25日、小本に仮置きされている宮古市の震災がれきの処理のため、盛岡市のパッカー車2台とダンプ車2台が到着しました。盛岡市は東日本大震災で発生した宮古市のがれき約10トンを小本の仮置き場から盛岡市クリーンセンターに搬入しました。県災害廃棄物処理詳細計画に基づいて、内陸部の自治体の本格的な受け入れがスタートしました。

両市や町、県の担当者ら立ち合いの下、仮置き場周辺と廃棄物自体の空間線量を測定。ともに平均値が24日の盛岡市クリーンセンター（毎時0.04～0.05マイクロシーベルト）と同レベル（毎時0.03～0.07マイクロシーベルト）だったことを確認し、運搬車両に積み込みました。

小本の仮置き場のがれきは宮古市分だけで1万2千トン。盛岡市は12月9日も布や木片など分別済みがれき10トンを搬入しました。



盛岡市のパッカー車に積み込まれる震災がれき

Ⅲ 被災者に対する支援状況

1 行政による支援

(1) 災害救助法の適用

3月11日、東北地方太平洋沖を震源とする地震により、岩手、宮城、福島、青森、茨城の5県において多数の者が生命または身体に危害を受け、または受ける恐れが生じ、避難して継続的に救助を要するため、災害救助法の適用を決定しました。

対象となる活動の種類（本法第23条、施行令第8条に規定）

- ◆避難所などの収容施設や仮設住宅の供与
- ◆炊き出しなどによる給食
- ◆給水車などによる給水
- ◆被服、寝具その他生活必需品の支給または貸与
- ◆医療及び助産（救護班の出動など）
- ◆罹災者の救出
- ◆罹災住宅の応急修理
- ◆罹災者の生業に必要な金品の給与・貸与
- ◆学用品の給与
- ◆埋葬
- ◆死体の搜索及び処理
- ◆災害によって住居またはその周辺に運ばれた土石、竹木などで、日常生活に著しい障害を及ぼしているもの（障害物（豪雪災害時の雪も含む））の除去

(2) 被災者生活再建支援法の適用

この法律は、平成7年に発生した阪神・淡路大震災をきっかけに制定された法律です。

平成8年9月、神戸市にある「コープこうべ」が、積極的な被災者支援策を政府に対して要求、全国の生協とともに「地震災害等に対する国民的保障制度を求める署名推進運動」を開始。

目標の2,500万人は達成できませんでしたが、コープこうべだけでも356万7,731

人、全国では約 2,400 万人の署名を集めました。これは 9 年 2 月に首相に提出され、政府による自然災害の被災者への支援や保障を検討する審議会の設置を要請。翌 10 年 5 月に議員立法により成立しました。

この法律は 2011 年の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）に際してクローズアップされることとなりました。

福島県・宮城県・岩手県・青森県の太平洋側沿岸の各自治体では津波により甚大な被害を受けた家屋が多数存在することから、4 月 13 日、政府は本法律に基づく支援金の支払い手続きを簡素化することを決定しました。具体的には、市町村職員が家屋の損壊度合いを調べ、全壊・半壊の認定をした罹災証明書の発行が前提となっていたものを、航空写真や衛星写真で家屋の流失が確認され、道路や水道などのインフラも破壊された地域の世帯に対しては、一律「全壊」扱いとして調査手続きを省いて罹災証明書を不要にし、それ以外の津波被災地でも、サンプル調査で 1 階天井まで浸水したことが一見して明らかな場合には、市町村の判断でその地域の家屋すべてを「全壊」扱いにできるようにするものです。

また、建物の被災について、建物の被災判定基準が液状化現象による被災に対応していない（多くの家屋が「一部損壊」と判定される）ことが指摘され、液状化被害の大きかった浦安市、千葉市、香取市など千葉県内 16 市の市長が松本龍防災担当相に要望を行っていて、内閣府は「建物の傾き」「建物の基礎の潜り込み」による判定基準を追加し、液状化被害を受けた家屋の判断基準を事実上引き上げる救済措置を発表しています。

（3）被災者救援対策の実施

●東京都昭島市との絆

3 月 27 日、東京都昭島市から 4 人のボランティアが来町しました。

昭島市と本町は、平成 7 年から、小学生が互いにホームステイをしたり、町の鍾乳洞探検や昭島市のくじら祭りに参加したりする小学生国内交流事業を実施。22 年 4 月からは、職員の人事交流が始まり、1 人ずつ職員が交換勤務しました。派遣ボランティアは 1 週間ごとに交代し、約 1 カ月間、避難所や災害対策本部の活動を支援しました。

4月4日、昭島市から、市職員ボランティアの第2班が来町。町長室では伊達町長に昭島市民からの見舞金が手渡されました。

4月15日、昭島市医師会（大田真也会長）から町に「震災被害を受けた小本地区の仮設住宅への往診の足として使っていただくとともに、町の皆さんへの復興のエールとなれば」と往診用車両が寄贈されました。車両には両市町の友好がますます深まるようにと願いを込めて、昭島市のシンボル「クジラ」と岩泉町のシンボル「龍ちゃん」のキャラクターが握手をしている大型ステッカーが施されています。

5月16日、町役場では昭島市医師会と東京都医師会の連名での車両贈呈があり、昭島市の石川勝己総務部長から伊達町長にキーが手渡されました。昭島市医師会からは震災後2台目の寄贈です。

8月6日、昭島市のフォレスト・イン昭和館で、昭島市と災害時相互応援協定を締結しました。東日本大震災においても昭島市からは、支援物資の提供、車両の寄贈、職員の派遣などの支援を受けましたが、今後、起こり得る災害時においても、互いに応援し合おうと協定を締結したものです。

8月7日、昭島市で開催された「東北・岩泉復興フェスティバル」で、昭島市内の中学生が、来場者に折りヅルの作成をお願いし、それを子どもたちが、ハートフラッグとして仕上げ、町に贈りました。



車両寄贈式



昭島市のボランティア

2 ボランティア活動状況

主な活動	主な団体
<p>小本小学校体育館の泥出し、周辺のがれき撤去 役場小本支所の泥出し。机や書庫などの搬出 小本農村婦人の家の泥出し、片付け 小本保育園の泥出し 個人宅の土砂の片付け、荷物運び 小本温泉の片付け 小本中野地区での消石灰による消毒作業 小本地区住民の家財道具の運搬 旅行会社職員による田野畑羅賀荘、小本川河川敷、水田などのゴミ拾い 高校生による活動（小本小学校・中学校、中野地区の掃除、ゴミ拾い） 小本小学校の引越し作業（荷物運び） 拾得物（写真など）の泥落とし、整理</p>	<p>宮古農業改良普及センター 岩泉普及サブセンター 乙茂部落会 町農業委員会 卒郡部落会 連合いわて 町議会 澤里土木工業 県立岩泉高等学校 群馬山岳隊（群馬県） 赤松工務店（埼玉県） H. I. S（東京都）</p>
<p>救援物資の仕分け（毛布や寝具類、洋服などの整理） 避難所や被災者宅へ物資運搬・配布、仮設住宅への物資搬入 避難所での炊き出し、ゴミの分別・片付け 避難所でのパーティションの設置 仮設住宅への引越し</p>	<p>とんがりぼうし サーブの会</p>
<p>作業療法士によるリハビリ 健康ツボ教室の開催 ハンドマッサージ 整体師・鍼灸師による施術 理・美容師による散髪</p>	<p>モルモンヘルピングハンズ ユニックストラベル はとの会、個人</p>
<p>避難所での健康チェック、話し相手 避難所でのニーズ調査 子供たちとの交流。遊び相手。絵本の読み聞かせ 大学生による子供との交流会</p>	<p>いわいずみ元気隊 けっばれ岩手っ子 岩泉更生保護女性会 早稲田大学</p>
<p>ボランティアセンターの受付業務 義援金の募金箱設置 田老地区への人材紹介</p>	
<p>小本地区での炊き出し 個人宅のガレキ撤去 物資配布 現地視察（田老、崎山、普代、田野畑など） 河川敷や海岸沿いの片付け</p>	<p>ブルーシート</p>
<p>仮設住宅での傾聴サロン 小本小学校への物資提供訪問 仮設住宅での炊き出し 仮設住宅での子育て支援</p>	<p>いわいずみ元気隊 群馬県館林立第九小学校 東京都福生市おじさん会 個人</p>

ボランティアの状況

	登録人数	依頼件数	派遣延べ人数
3月31日現在	394	53	881
4月30日現在	186	43	744
5月31日現在	52	10	301
6月30日現在	6	3	111
7月31日現在	17	2	117
8月31日現在	115	1	313
9月31日現在	10	0	55
10月31日現在	1	0	13
11月28日現在	11	0	18
合計延べ人数	792	112	2,553
高校生 154 人。中学生 17 人。町外 181 人			



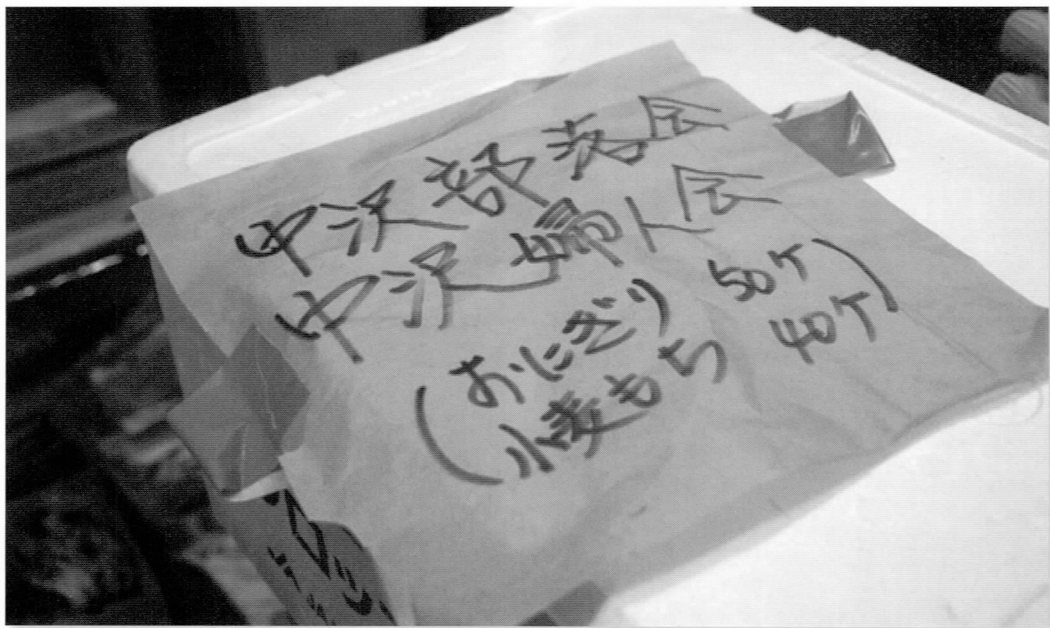
がれき撤去作業に汗する高校生ボランティア

避難支えた町内互助の炊き出し

被災住民のため、町内陸部の住民が炊き出しをして避難生活を懸命に支えました。町民会館では毎日、炊き出しを実施。各地域振興協議会や自治会、婦人会などが中心となり、中学生も参加して避難所の食事を確保しました。津波で甚大な被害を受けた小本地区に向けて出来上がったおにぎりを次々と送り出しました。また、町内各地区からおにぎりなどや餅などの食料が持ち寄られました。



炊き出しには中学生も参加しました



町内各地から持ち寄られた食料

3 第3セクターの対応

岩泉産業開発(株)

●被災地に「安全な水」求める 首都圏から岩手に注文殺到

東京、茨城、埼玉、千葉各都県の一部自治体の浄水場から乳児の摂取基準値を超える放射性ヨウ素が検出された問題で、首都圏を中心に「安全な水」を求める動きが広がり、県産ミネラルウォーターの需要も急増。町で龍泉洞地底湖に湧き出している上流水系の地下35メートル地点で取水し、「龍泉洞の水」として販売している岩泉産業開発には注文が殺到しました。同社は施設被害はないものの、龍泉洞の水他飲料用ペットボトルの調達に支障が生じ、製造出荷を調整しました。

●ふれあいランド岩泉

震災発生後、避難場所としてコテージに被災者を受け入れました。また、自衛隊駐留地、臨時ヘリコプター発着所として使用しました。

岩泉総合観光

●龍泉洞温泉ホテル

震災発生後、避難場所として被災者を受け入れました。また、町外の被災者の入浴も受け入れました。



避難所となった龍泉洞温泉ホテル



自衛隊が駐留したふれあいランド岩泉

4 義援金の受入状況

東日本大震災に際して、全国各地の皆さんから励ましの言葉とともに、人的援助、救援物資など多くのご支援をいただきました。これまでの多大なご支援に感謝するとともに、復興に向けて引き続きご支援、ご協力をお願いします。ここでは、支援をいただいた内容について、災害義援金と寄附金を提供いただいた皆さんを紹介します。(敬称略)

◆義援金

被災者の生活支援のために活用されます。

【町内】(50音順)▷アイファー(株)岩手工場 20万円▷赤坂啓吾 3万円▷浅内自治会 5万円▷安家こども会 1万円▷安家地域振興協議会 28万 3500円▷穴沢婦人会納税組合 10万円▷伊東勝幸 3万円▷岩泉高校女子バレーボール部父母会 1万円▷岩泉商工会役員一同 10万円▷岩泉地域振興協議会 151万 8482円▷岩泉中学校 P T A 2万 8340円▷イワイズミチヨウグラウン 550円▷岩泉町社協 1万円▷岩泉町職員組合 5万円▷岩泉町職員退職者の会 3000円▷岩泉昇 2万 3000円▷岩泉林務事務所親睦会一同 1万円▷上の山第一納税組合 10万円▷有芸地域振興協議会 13万 6000円▷内村慶次郎 10万円▷S 39 卒岩泉中学校丑寅会 5万円▷沿岸広域振興局岩泉土木センター職員一同 10万円▷大川本町町内会 3万円▷おおかわむら地域振興協議会 50万円▷おもと青空市 1万 3730円▷春日神社祭実行委員会 5万円▷門小学校教員一同 2万 5000円▷門町母の会 3万 6735円▷金澤光一 1万円▷(株)岩泉産業開発従業員一同 10万円▷釜津田地区村づくり協議会秋まつり実行委員会委員長佐藤安美 3万 153円▷釜津田防火婦人クラブ会長三上きぬ子 2万円▷上川原タマ 10万円▷きぼうハウスまつり 1400円▷小川地域振興協議会 95万 3000円▷小川地域振興協議会 1万 4000円▷小川中学校 S 41 年度卒業生一同 4万 1811円▷小川中学校 S 55 卒業生一同 5万 373円▷小川中学校 P T A 2万円▷小屋敷町内会 10万円▷下町町内会会長工藤修 2万円▷収穫感謝まつり&健康食まつり(栃の木皆の川) 2000円▷食生活改善グループいわいずみ会 1万円▷関口幸子 1800円▷外椀部落親和会 2万円▷つるや食堂 1万円▷中央第一総合(有) 10万円▷町朝野球協会会長八重樫寛二 3万円▷町社会福祉協議会親睦会 4万 7000円▷町社会福祉協議会親睦会 1万 5000円▷町職員一同 77万 3000円▷町職員退職者の会 31万 5000円▷町自衛隊父

兄会 3万円▷町バレーボール協会会長佐々木良治 1万円▷町ボランティアフェスティバル実行委員会 7万 5276円▷町老人クラブ連合会 27万円▷特別養護老人ホーム百楽苑親睦会 5万円▷中沢小学校 12万 1561円▷二升石青年会 1万円▷2011 ボージョレーヌーヴォー祭参加者一同 1万円▷野館清一 5000円▷八幡宮祭典実行委員会門町町内会 3万円▷ハイマート松橋振興会 1万円▷畑中善四郎 1万円▷畠山章 1000円▷東日本交通(株) 10万円▷伏屋部落自治会 2万円▷前角地良幸 2万円▷南沢廻町内会 20万円▷モーとんふぁみりー 15万円▷八重樫淳 1万円▷八重樫春子 3万円▷役場婦人バレーボール 1万 8230円▷(有) 岩泉衛生社 10万円▷(有) 上野牧場 50万円▷郵便局長会下閉伊部会 5万円▷よってけ市場組合 10万円【県内】(盛岡市)▷植村功 3万円▷菊池泰子 1万円▷(協) 県資産評価システムセンター理事長尾形善美 50万円▷佐々木清文 1万円▷(財) 県対ガン協会会長大堀勉 10万円▷高屋敷良子 1600円▷東北公営企業(株) 5万円▷匿名(盛岡市役所扱い) 1万円▷藤澤昭治 3万円▷東日本ハウス(株) 50万円▷平野稔 3万円▷盛岡大学短期大学部 1万円▷ライオンズクラブ国際協会 332-B地区地区ガバナー相原富美忠 20万円(久慈市)▷(株)大畑建築設計 20万円▷黒沼建築設計事務所所長黒沼忠雄 3万円(野田村)▷大崎英雄 20万円(田野畑村)▷畠山久造 10万円(宮古市)▷(株)岩手県北観光職員互助会 1万円(滝沢村)▷新岩手農業協同組合代表理事組合長田沼征彦 10万円▷(有)環境計画工房 3万円(紫波町)▷畠山富而 20万円(矢巾町)▷岡崎正男 2万円▷(株)モリケン 3万円(矢巾町、西和賀町)▷岩手県生活と健康を守る会連合会他 2団体 3万円(金ヶ崎町)▷金ヶ崎町長・議会議長 30万円(花巻市)▷伊藤晴二 3万円▷熊谷仁見 3万円(北上市)▷佐藤守 3万円▷匿名(北上市役所扱い) 5万円(奥州市)▷石川禮子 3万円(平泉町)▷中尊寺 96万 340円▷平泉町 20万円【県外】(北海道)▷木村千枝美 3万円▷壮瞥町長山中漠 10万円▷プロテック(株)社員一同 1万 2500円(青森県)▷下平孝志ほか有志 1万 1000円▷下平孝志ほか有志 2万 7500円(秋田県)▷小野さおり 1万円(宮城県)▷JACCO 代表鹿股弘毅 7万円(福島県)▷紺野昭治 10万円(栃木県)▷(株)大金ゴルフ倶楽部 10万円(茨城県)▷常総生活協同組合 10万円(群馬県)▷長谷川善和 5万円(千葉県)▷澁谷暎子ほか 3人 2万円▷高橋美臣 2万円▷日軽建材工業(株)労働組合 100万円▷日本女子大学社会福祉学科こども会研究会・わかば会元会員有志一同 20万円▷宗像美智子 3万円(埼玉県)▷(株)ちっきん佐々木健開他一同 6万 1418円▷北畑光男 4万円(東京都)▷アイネ. クライネ. コンツェルト代表猪俣よしこ 5万 3905円▷昭島公立

小中学校PTA西部地連絡会イケダヨシト 7万円▷昭島市幹部会 50万円▷昭島市議会 10万円▷昭島市サッカー協会理事長田中邦雄 25万 8827円▷昭島市職員一同 90万円▷昭島市長、副市長、教育長 30万円▷昭島市部長会 20万円▷昭島市フットベースポ 2万 8400円▷昭島酒商組合 5万円▷昭島青年経営者クラブ 34万 9843円▷昭島田中町住宅自治会会長白井政治 8万円▷池田耕平 1万円▷岩泉町ふるさと会 162万 7210円▷岩田政利 1万円▷江戸川女子中学校・高等学校 50万円▷大森清人 1万円▷(株) I H I 環境エンジニアリング 50万円▷川田陽吉 3万円▷競馬モール(株) 楽天競馬義援金 10万円▷芸能山城組組頭山城祥二 10万円▷公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会 20万円▷小島美子 5万円▷小松崎秀之 5000円▷佐々木エミ子 5万円▷佐々木純 1万円▷島田文明 1万円▷庄田万里子 1万円▷菅原敏 5万 4000円▷杉原絵美・里紗 2万円▷杉山香純 1万円▷聖心女子学院中・高等科父兄後援会・母の会 20万円▷聖心女子学院中・高等科もゆる会 20万円▷瀬川信幸 10万円▷世田谷区長 60万円▷全国市町村水産業振興対策協議会 3万円▷曹洞宗宗務庁 100万円▷ダム・発電関係市町村全国協議会会長辻一幸 3万円▷東京昭島中央ロータリークラブ 5万 1350円▷東京陸中懇談会 5万円▷東京陸中懇談会 5万円▷東田知子 11万 3178円▷中尾かよ子 5000円▷日本共産党中央委員会 300万円▷日本自治体労働組合総連合 50万円▷日本郵政募金会代表片野健一 18万円▷長谷孝治 10万円▷半田香代子 1万円▷溝口周道 3万円▷三菱UFJ投信(株) 144万 9418円▷MORIMORI ネットワーク 10万円▷屋根屋一同 5万 8971円▷山寺孝 10万円▷(有) 源 12万円▷(有) Style-0 (スタイルゼロ) 14万 2円 (昭島市開催) 東北地方・岩泉町復興支援フェスティバル実行委員会 6万 8210円 (神奈川県)▷大谷信子 10万円▷岡本良子 1万円▷(株) ショウエイ 共済会社員一同 20万円▷川村工業 10万円▷慶應義塾湘南藤沢中等部 15万円▷鈴木洋子 9万 8820円▷三崎たずゑ 1万円▷森村陽一 10万円 (長野県)▷松崎まゆ子 5000円 (石川県)▷輪島市 20万円 (岐阜県)▷飛騨大鍾乳洞観光(株) 10万円 (愛知県)▷中嶋誠浄 1万円▷原田スエ 8万円▷原田良二 2万円 (京都府)▷内山直哉 3500円 (兵庫県)▷島田幸司 10万円▷新開地周辺地区まちづくり協議会会長高四代 210万円 (大阪府)▷(福) 産経新聞厚生文化事業団理事長横田憲一郎 300万円 (愛媛県)▷野井和光 1100円 (鹿児島県)▷(株) 薩摩恵比寿堂 5万円 (口座振込他・50音順) 【あ】▷アゼチシントロウ 100万円▷アソケイコ 3万円▷アベケイコ 1万円▷アベミツノリ 1万円▷アリハラミノル 5000円▷イクマミチツグ 1万円▷イグチコウジ 20万円▷池沢護 2万 3000

円▷イケダヨシト 6340円▷イシカワヤヨイ 3万円▷イシハラタケシ 1万円▷イト
ウワカコ 5万円▷イドマサトシ 5万円▷イナエマサオ 3万円▷イムラトミコ 3万円
▷イワイユウト 1万 407円▷イワキタダオ 1万円▷イワキヤスコ 5千円▷岩崎まき
子 1000円▷イワテケンシチヨウソンキヨウ 9万 3000円▷イワモトミユキ 5万円▷
ウエムラハナワテン 1万円▷ウエムラヨウコ 5万円▷ウチムラカツシ 2万円▷エタ
ニヒサコ 1万円▷エヌピーオークリーンプ 5万 6000円▷オイカワジロ 1万円▷オ
オイシノブヨシ 1万円▷オオイシヨシキ 3000円▷オオシタマツオ 3000円▷オクダ
ユカ 3000円▷オツボミチアキ 3000円▷オトベトモアキ 2万円▷オトベミズキマユ
コ 1万円▷オリタチギク 1万円【か】▷カツラサチコ 1万円▷カトウアツコ 10万
円▷カトウテル 302円▷カトウミホ 2万 5000円▷カトウユキコ 6万円▷(株)サ
カモト 5万円▷(株)ショウワドボクセツケイ 20万円▷カ)ニチキ 20万円▷カ)ミ
ナカワゴルフコン 3万 3260円▷(株)リュウツウギケンド 10万円▷カネオカメグミ
1万円▷カマタヤスヨ 5000円▷カワトサカエ 10万円▷カワノヒロミ 1万円▷川鍋
四七三 5万円▷カワムラテルオ 1万円▷カワムラマサカズ 100円▷カワムラマサカ
ズ 1000円▷カワムラユカ 3万円▷カンノ 1万円▷カンノメグム 2千円▷キクチタ
カユキ 1万円▷キクチヒロアキ 5万円▷キクチマナブ 1万円▷キタマタキヨシ 1万
円▷君島正彦 3400円▷キムラカズエコ 5000円▷キムラタエコ 2万円▷キムラマリ
コ 5000円▷キムラヨシコ 10万円▷クドウイクオ 1万円▷クドウクガネ 7 1 5円▷
クドウハルユキトシコ 5万円▷クドウマコト 10万円▷クドウヨウコ 1万円▷クド
ウヨシヒロ 5000円▷クボミツグ 2万円▷クボイアサシ 10万円▷久保田正夫 1万円
▷クボタミツコ 1万円▷クマザワツトム 5万円▷グリーンエクスプレス(株) 3万円▷
ケイバモール (株)ラクテンケイバギエンキン 10万円▷コンノナオコ 5000円▷コ
ンノナオコ 2000円▷コヤマヨウイチ 5万円▷コンノナオコ 1000円【さ】▷サイ
トウマユミ 5000円▷ササキアキエ 3000円▷ササキアケミ 5000円▷ササキカツミ
3万 9597円▷ササキカズエ 5000円▷ササキジュンイチ 5000円▷ササキタカユキ
1万円▷ササキタカユキ 2万円▷ササキタケトシ 3000円▷ササキツキコ 2万 5000
円▷ササキテツオ 1万円▷ササキトシミ 5円▷ササキハツオ 5000円▷ササキヒロ
シ 3000円▷ササキマキコ 5万円▷ササキヤエコ 1万円▷ササキヤスヒロ 3000円▷
ササキユウキ 1万円▷ササキユキオ 1万円▷ササキヨシノリ 5000円▷ササキリョ
ウジシズ 5000円▷サトウアツコ 1万円▷サトウエミコ 5万円▷サトウオサム 1万
円▷サトウキョウコ 2万円▷サトウジュンイチ 1万円▷サトウナミ 1万円▷サトウ

ナミ 5000 円▷サトウナミ 3000 円▷サトウナミ 3000 円▷サトウナミ 3000 円▷サト
ウナミ 3000 円▷サトウナミ 3000 円▷サトウユウコ 1 万円▷サトウヨウコ 5 万円▷
サノユヅキ 1 万円▷サワグチヨシオ 1 万円▷サンツカマサユキ 3 万円▷サンツカマ
サユキ 1 万円▷サンツカマサユキ 1 万円▷下道喜平 1 万円▷シナガワツヨシ 2 万円
▷ジャパンエンバ(株)ユ 10 万円▷ジャパンエンバ(株)ダ 10 万円▷ショウジミホ 3000
円▷シラハタヒトシ 1000 円▷シラハタヒトシ 1000 円▷シンニホンフジンノカイ
イワ 30 万円▷スエミツマリコ 1 万円▷スガワラビン 2 万 6000 円▷スギザキゲン
リュウ 3 万円▷スズキツヨシ 2 万円▷スズキヤスコ 1 万円▷セキグチシュウイチ
1 万円【た】▷タカハシキハチ 5 万円▷タカハシマコト 1000 円▷タカハシマコト
1000 円▷タカハシモトノリ 27 万 8500 円▷タカハシユミ 3 万円▷タカハシリョウ
コ 5000 円▷タカモクヒロミツ 5000 円▷タケダシゲオ 1 万円▷タケダシゲオ 1 万円
▷タケダジュロウ 2 万円▷タケダタミコ 2 万円▷タケダリセコ 1 万円▷タケベヨウ
ヘイ 1 万 5000 円▷タチバナナツキ 2 万円▷タナカノブコ 1 万円▷タムラシンゾウ
3 万円▷チバアキヒコ 2000 円▷チリタエコ 2000 円▷ツカハラマコト 9895 円▷月
村修 3 万円▷ツシマトシコ 3000 円▷ツジモトナガヒデ 2 万円▷トウキョウミヤコ
ドウキョウ 5 万円▷トウケイチョウサインキョウキ 1 万 8425 円【な】▷ナカガワ
オサム 1 万円▷ナカガワヒデユキ 1 万円▷ナカザワショウガッコウシ 5 万 6022 円
▷ナカニシヨウスケ 1 万円▷ナカムラアキラフチコ 10 万円▷ナカムラクミコ 5 万
円▷ナカムラゲンジ 200 円▷ナカムラシュンキチホカユウシ 5 万円▷ナカライタカ
シ 3 万円▷ナガイハツミ 1 万円▷長崎たえ子 1000 円▷ナガスエマスミ 3000 円▷ナ
ラーヤマモトシュウジータ 1 万円▷ニイガタケンウオヌマシシャ 3 万 5675 円▷ニ
シマカオル 1 万円▷ニシマシン 1 万円▷ニタナイサヤカ 3000 円▷ネコゼンショウ
1 万 5000 円▷ノグチタダシ 5000 円▷ノダテカオリ 5000 円▷ノダテチカラ 1 万円
【は】▷ハギニワトシ 5500 円▷ハコイシナオト 1 万円▷ハシバヨウコ 3 万円▷ハセ
ガワヤスオ 1000 円▷ハバノナカ 1 万円▷ハヤシケイコ 1 万円▷ハヤノタカシ 10 万
円▷ハワイ・ラハイナ地区ガレージセール収益金(代表ブライアン・コックス) 15
万円▷ヒキダトシアキ 1 万円▷ヒシマホコ 6 万円▷ヒュウガヤスユキ 5 万円▷フカ
イジュンコ 1 万円▷フクダタダシ 1000 円▷フジタカナコ, マガサワ 1 万 5000 円▷
フクダタカシ 9580 円▷フマイアンダンシント 12 万 3752 円▷フルサトフッコウオ
ウエンカン 10 万円▷古畑朝一 1 万円▷ベッショノリエ 1 万円▷ヘライアキコ 5000
円▷ヘンミノリアキ 10 万円▷ホソブチスミエ 1 万円▷ホンマアツシ 3 万円【ま】

▷マエヤマトモヒロ 5000 円▷マツオカカナ 5000 円▷マツシタマリ 1 万円▷マツダ（トミヤ）エツコ 5 千円▷マツマエショウテン 5 万円▷ミウラエミコ 2 万円▷ミウラオサム 5 万円▷ミウラテツオ 20 万円▷ミウラヒサコ 5 万円▷ミウラヘイゾウ 5 万円▷ミウラマサユキ 10 万円▷ミカミキョイチ 1000 円▷三上タツ 5000 円▷ミカミマサタカ 1 万円▷ミズサワジュンコ 1 万円▷ミズノカズヒコ 1 万円▷ミナワサホリ 1 万 5000 円▷ミヤケエツコ 3 万円▷ミヤモトセイコ 3 万円▷ミヤモトトシアキ 5000 円▷ミヤヤマヒロシ 1000 円▷ミヨシタカミヨシエ 10 万円▷ムラカミアキラ 5 千円▷モウリタカオ 3 万円▷モトミヤレイ 5000 円▷モリタサチコ 3 万円▷モリタヨシト 3 万円▷モリタヨシハル 5 万円【や】▷ヤガワアキヒロアキシマ 1 万円▷ヤマダタダオ 5000 円▷（有）カキシタカキシタシケ 10 万円▷ヨウキヨクイワイズミキ…10 万円▷ヨシムラフミヒコ 10 万円▷米澤節子 5 万円【ら】▷ライアンジュンコ 1 万円【わ】▷ワクイシトミジ 1 万円▷ワコウシンジ 5 万円▷ワタナベユキコ 1 万円【その他】▷匿名 1 万円▷匿名 6 千円▷匿名 1 万 4433 円▷匿名 4 万 3766 円

◆寄付金

復興事業の財源として活用されます。

【個人・町内】▷阿部孝四郎 500 万円▷阿部佳史 20 万円▷内村利裕 30 万円▷加藤正明 5 万円▷加藤八重子 50 万円▷佐々木トシ 100 万円▷立花等 200 万円▷長山敦 10 万円▷橋場昭喜治 5 万円▷八重樫芳令 100 万円▷匿名 3 人 220 万 1041 円

【個人・県内】（盛岡市）▷小野寺トワ 10 万円▷佐々木純 100 万円（一関市）▷鈴木忠儀 7 万円（滝沢村）▷新岩手農業協同組合 5 万円（その他）▷匿名 3 人 11 万円

【個人・県外】（山形県）▷門間傳 1 万円（神奈川県）▷小野沢康 30 万円▷小島憲和 100 万円▷佐々木喬 100 万円▷箱石良三 10 万円▷山田美智子 10 万円（埼玉県）▷植村暢穂 20 万円▷町田泰義 2 万円（千葉県）▷加藤朱美 50 万円▷加藤厚夫 70 万円▷立原あゆみ 41 万円▷藤本順一 60 万円▷藤本昌子 5 万円（栃木県）▷栗原勉 5 万円（茨城県）▷岩崎道則 10 万円（東京都）▷榎本三生子 50 万円▷小和田瑞江 2 万 5 千円▷釜谷薫子 5 万円▷上條利子 3 万円▷桐原睦子 100 万円▷小林昌彦 1 万円▷澤口正男 7 万円▷田尾陽一 10 万円▷多和田良子 30 万円▷中須賀恵律子 3 万円▷成瀬一寛 10 万円▷藤井眞喜子 10 万円▷山内勇 1 万円▷山田真治 5 千円（富山県）山崎範 10 万円（愛知県）菊池則雄 100 万円（和歌山県）高橋やよい 5 万円（佐賀県）小田博史 20 万円（その他）▷匿名（10 人）91 万 5 千円

【団体・町内】【あ】▷岩泉工人会 5万円▷岩泉町工芸家一同 1万5千円▷岩泉乳業(株) 3万円▷卯・辰還暦祝い実行委員会 10万円▷大牛内地区部落会連合会 7万円▷小野新建設(株) 30万円▷小本運送(有) 10万円【か】▷(株)荒井製作所・岩手アライ(株) 500万円▷(株)イブキ産業 50万円▷(株)岩泉きのこ産業 3万円▷(株)岩泉産業開発 3万円▷(株)岩泉産業開発 25万5425円▷(株)岩泉総合観光 3万円▷(株)奥村電気商会 30万円▷(株)佐藤組 20万円▷(株)西倉工務店 20万円▷(株)畑中組 30万円▷(株)フジサワ 5万円▷工藤建設(株) 20万円▷工藤建設(株)陸中サービスセンター 10万円▷県北緑化(有) 30万円▷古久根建設(株) 100万円▷県立岩泉高等学校生徒会 5万5679円【さ】▷(社)岩泉農業振興公社 3万円▷(社)県建設業協会岩泉支部 10万円▷(社)県建築士会岩泉支部 30万円▷新岩手農業協同組合岩泉支所 3万円【た】▷高德建設(株) 30万円▷町議会議員退職議員OB会 3万円▷町社会福祉協議会小川支部 13万5000円▷町森林組合 3万円▷町立安家中学校 1万円▷町立有芸小中学校児童生徒会 2万3999円▷町立大川中学校生徒会 1万796円▷町立小本小学校大牛内分校児童会 6257円▷町立国見小学校児童会 4万1469円【な】▷中野七頭舞保存会 200万円▷七滝まつり実行委員会 5万円【は】▷ふるさと薬膳 縁樹 2万円【ま】【や】▷(有)五日市建設 5万円▷(有)岩泉ゴム工業 20万円▷(有)岩泉マッカーラー商会 20万円▷(有)工藤土建 5万円▷(有)澤里土木工業 30万円▷(有)中松屋 200万円▷(有)三上建設 5万円▷横屋建設(株) 20万円▷横屋建設(株)建材部 10万円【ら】▷菱和建设(株) 100万円

【団体・県内】(盛岡市)▷(株)アイシーエス 200万円▷小本ふるさと会 14万8000円▷(株)会議録センター盛岡営業所 10万円▷(株)現代建築設計事務所 30万円▷(株)事務機商事 10万円▷(株)奥村電気商会 30万円▷県市町村職員退職者の会 10万円▷県自治体労働組合総連合 100万円▷県社会福祉協議会保育協議会 152万7千円▷県町村会 2460万6225円▷(財)県市町村振興協会 185万円▷県町村議会議長会 18万円▷(財)岩手県市町村職員互助会 100万円▷浜民灯り会 3万3000円▷(社)県測量設計業協会 20万円▷第35回出光イーハトーブトリアル大会 22万5155円▷(株)NIPPON岩手統括事業所 200万円▷(株)渡辺設計事務所 10万円▷新日本婦人の会県本部 10万円▷菱和建设(株) 100万円(久慈市)▷宮城建設(株) 500万円(宮古市)▷(株)イブキ産業 50万円(八幡平市)▷八幡平市 50万円(滝沢村)▷滝沢村議会 3万5000円(田野畑村)▷大崎建設(株) 10万円▷横田建設(株) 10万円▷佐藤建設(株) 20万円▷熊谷建設(株) 20万円(山田町)▷(株)エフビー 100万円

【団体・県外】（北海道）▷陸上自衛隊第2師団5万円（宮城県）▷（株）ユアテック200万円▷（社）日本補償コンサルタント協会東北支部30万円（千葉県）▷緑と海と太陽の会50万円（東京都）▷昭島市168万7813円▷大妻多摩中学高等学校後援会10万円▷大妻多摩中学高等学校生徒会5万5410円▷織り織りのうたプロジェクト実行委員会1万2180円▷（株）ぎょうせい10万円▷（株）生活構造研究所10万円▷公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター3万円▷国際松濤館空手道連盟50万円▷国際ソロプチミスト昭島100万2524円▷古久根建設（株）100万円▷シダックス（株）5万円▷（社）生活福祉研究機構77万円▷新日本婦人の会50万円▷世田谷区100万円▷全国森林環境税創設促進連盟5万円▷全国町村議会議長会103万円▷第一法規（株）10万円▷東亜運輸（株）100万円▷東京エレクトロン（株）60万円▷東京書籍（株）50万円▷特殊バネ（株）100万円▷（特非）ICYE JAPAN 3万5500円▷ユア-ハイマート（株）50万円（新潟県）▷小千谷市10万円▷十日町市10万円▷新潟アライ（株）20万円（長野県）▷（株）K A T E K Y Oグループ20万5075円▷（株）マル井100万円（岐阜県）▷白川町30万円（大阪府）（福）産経新聞厚生文化事業団300万円（鹿児島県）▷知名町24万3000円（その他）▷匿名1団体20万円

【団体】 国外▷米国ウイスコンシン・デルズ市54万6597円

●町への寄附金、義援金の状況

義援金などの配分・受付・交付状況（11月30日現在）

（単位：円）

区 分	内 容	配分・受付額	交付額
国・県義援金	第1次配分金	98,750,000	98,750,000
国・県義援金	第2次配分金	163,113,000	163,113,000
合 計		261,863,000	261,863,000
町災害義援金	個人 287 件	8,448,370	
町災害義援金	団体 160 件	30,183,450	
合 計		38,631,820	19,460,000
町災害見舞金			10,340,000
合 計		300,494,820	291,663,000



龍泉洞温泉ホテルでの義援金の交付申請受付

5 仮設住宅の設置状況

5月17日、仮設住宅小本団地が完成し、入居が始まりました。町では小本、岩泉、小成の3団地の仮設住宅を整備し、5月中に希望者全員が入居。近隣市町村の被災者も受け入れました。

(平成24年1月11日現在)

団地名	住所 (代表地番)	整備 戸数	入居 戸数	入居 人数	うち町外		残戸数	着工年月日
					入居 戸数	入居 人数		完成年月日
小本 団地	岩泉町中島字長 内140	84	78	199	0	0	6	3月30日
								5月3日
岩泉 団地	岩泉町岩泉字中 野6-1	39	24	49	4	6	15	4月6日
								4月28日
小成 団地	岩泉町小本字小 成133	20	16	35	0	0	4	4月22日
								5月23日
合計		143	118	283	4	6	25	



仮設住宅小本団地

●岩泉町：被災地の人口・高齢化率

	行政区	人口	うち高齢者	高齢化率
401	小 成	141	38	26.95%
402	茂 師	103	34	33.01%
403	小 本 1	168	62	36.90%
404	小 本 2	260	94	36.15%
405	中 野 1	171	64	37.43%
406	中 野 2	251	71	28.29%
407	中 島	88	30	34.09%
408	卒 郡	64	20	31.25%
409	岸	62	25	40.32%
410	中 里	108	42	38.89%
411	褓 野 1	30	10	33.33%
412	褓 野 2	85	26	30.59%
413	大 牛 内	73	25	34.25%
414	清 水 野	114	43	37.72%
415	高 松	77	25	32.47%
416	豊 岡	50	14	28.00%
小本地区		1,845	623	33.77%

平成 23 年 2 月末日現在（グレー部は被災エリア）

6 町長との意見交換会を開催 ～被災者の声を集約～

4月16日、町民会館で町主催の「被災者と町長の意見交換会」が開催され、160人余りが出席し、被災した小本地区の復興に係る意見を交わしました。主な意見は次の通りです。

「堤防のかさ上げをして、現在地に再び住めるよう整備してほしい」

「町管理の小本漁港の水門を、県管理の水門と同様に安全な場所で遠隔操作できるようにしてほしい」

「義援金などを早期に支給してほしい」

「これからの人たちには、津波の心配のない小本に住ませたい」

「小本を離れたくない。盛り土をうまくやってほしい」

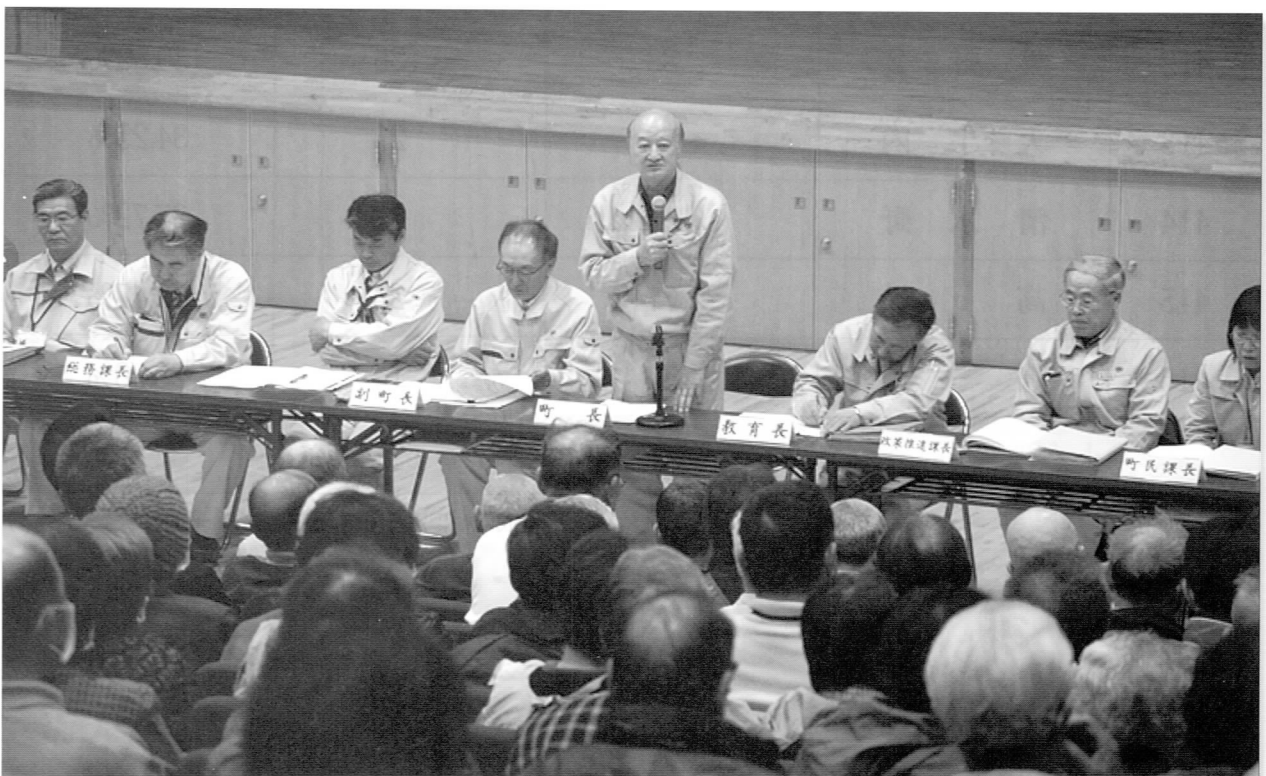
「今回の津波が到達しなかったレベルに再建すべきではないか」

「復旧にとどまらず、道路や宅地造成など根本的な構造を見直してほしい」

「今のままの地番で暮らしたい。防災施設・設備を強化してほしい」

「仮設住宅で2年間過ごした後、自分の家を建てられる人がどれだけいるだろうか。補助や貸付制度の充実をお願いしたい」

「子どもたちに安心して引き継げる、危険度の低い町をつくってほしい」



参加者に開催趣旨を説明する伊達町長

IV 災害復旧の状況

1 復興対策本部の設置

4月25日、町では町の復興と地域住民の生活再建を図るため、災害対策本部と並行し「岩泉町震災復興対策本部」を設置しました。本部は町役場の各課長などで構成され、被災した小本地区の公共施設の配置を含む「災害に強いまちづくり」や産業政策など恒久的課題に取り組みました。



2 復興委員会の設置

町では被災した小本地区の住民意見を集約するため、岩泉町東日本大震災復興委員会を設立しました。6月30日、町役場会議室で第1回委員会が開催され、関係機関や被災地域住民の代表など約60人が出席。委員長には岩手県立大学総合政策学部教授で地域連携本部長の豊島正幸氏が選任されました。

会議では震災被害の状況と対応を説明し、町の復興計画骨子案について話し合いました。主な意見、要望などは次の通りです。

「ライフラインの復旧、仮設住宅の整備は思っていた以上に早い対応だった。今住民は先が見えずに眠れないでいる。代替地案を早急に示してほしい」

「台風時の対策も併せて講じてほしい。小型船が出入りできるように航路の確保を急いでほしい」

「津波を正面で受け止めるのではなく、川に流すような防潮堤の整備を望む」

「水門をすべて遠隔操作できるように整備してほしい」

「電話通信の確保のために宮古市のNTTの立地場所を再検討するよう要望してほしい」

「国道45号より海側は人が住まないようにするのが最も経済的なのではないか。人が造ったものはいつか壊れる。基本的に高台移転に賛成だ」

委員会は7月22日開催の第2回委員会、8月11日開催の第3回委員会と審議を重ね、9月町議会定例会に町震災復興計画（案）を提案し、採択されました。



復興委員会

3 地域懇談会で膝詰め談義

7月4日、小本地区の復興推進に向けて、各地区に町長が出向いて住民と直接対話する「町震災復興地域懇談会」が小本浜漁協を皮切りに始まりました。懇談会で出された意見などは次の通りです。

●小本地区を安全地帯に

「具体的な代替地案はまだ示されないか。小本地区には約40戸が残った。郵便ポストの設置を要望したが、小本は“危険地帯”なので設置できないと断られた。安全な小本をつくるための具体的な計画は？小本が“安全地帯”になるならば、同じ顔ぶれで生活できる。専門家の考えを教えてください」

「アンケート結果によると、三陸鉄道小本駅周辺への移転希望者が多いが、宅地確保の見通しは？」「代替地などが早期に示されなければ、息子のところに行くという声も聞こえてくる。むやみに高台移転すると、残った高齢者などを避難誘導する人がいなくなってしまう。今回の津波はシミュレーション通りだった。シミュレーションを十分参考にして基盤整備をしてほしい」

「死亡者をゼロにできなかったことが残念。自主防災組織の重要性を認識し、啓発に努めなければならない」

「被災者は生活を取り戻すことで精いっぱいだ。冷静な第三者の意見を聞きたい」

「被災地を町が買い上げて同じ坪数の代替地を与えるなどしてはどうか」

「余震が不安で眠れない。津波の心配のないところに住みたい」

●防災設備の充実を

「河川堤防を“津波堤防”と位置付けて、かさ上げ整備をしてほしい」

「防災設備を整備して、小本地区民を安心させてほしい」



小本浜漁協での懇談会

「漁港水門の整備が必要」

「防災無線の調子が悪く、聞き取れないところがある」

「小成コミュニティセンターが避難所に指定されているが、老朽化していて不安」

●児童生徒の負担軽減を

「小本小学校は避難階段も整備されている。岩泉小学校への通学の負担は大きい。現在の校舎で授業を再開できないか？」

「小学校の校舎を仮使用させてもらえないか。遠距離通学する生徒の負担が大きい。掃除が必要であればPTAも協力する」

「中学校建設地について十分に検討してほしい。アクセスが容易で水の供給がしっかりできるところがいい」

「空手教室の練習を海洋センターで行っているが、帰りが遅くなって子供たちの負担が大きい。被災した小本地区生活改善センターを使わせてもらえないか」

●農漁業復旧への支援を

「ワカメ養殖施設の復旧に支援してほしい」

「水田にいろいろなものが入っていて耕運機の爪を壊す。トラクターなどで掘り起こしてもらえないか」

●道路整備、衛生管理を

「三陸北縦貫道路のルートを示してほしい。小成地区にぜひインターチェンジを設けてほしい」

「被災住宅の便槽に雨水がたまってウジがわく」

町では3日間で出されたこれらの意見、提言を集約し震災復興計画を具体化しました。



中島地区集会施設での懇談会

4 仮設店舗

「みらいにむけて商店街」がオープン

9月19日（月）、三陸鉄道小本駅の西側に共同仮設店舗「みらいにむけて商店街」がオープンしました。

仮設店舗は、津波で浸水しなかった民有地約2800平方メートルを町が借り、中小企業基盤整備機構（本部東京都港区）が延べ床面積約650平方メートルの平屋プレハブ2棟を建造しました。

名称は小本小学校3年の木村恵理さんが、「大人になったらこの町が復興してほしい」という思いを込めたものです。

食料品や衣類、家電など小本地区で津波被害を受けた7商店が入居。「みらいにむけて」の第一歩が踏み出されました。

「みらいにむけて商店街」の構成事業所（当初）……千葉たたみ店、三浦物産株式会社、石黒薬店、早野商店、箱安商店、三浦無線商会、有限会社山口屋



みこしでオープンを祝うスポーツ少年団員

5 仮設工場

企業2社が本町に立地

12月9日、有限会社竹下水産（竹下幸治取締役）とツインスターテクノロジー株式会社（埼玉県・親崎保代表取締役）の2社と町は企業立地協定を締結しました。

有限会社竹下水産は水産物の冷凍加工食品を製造する会社で、田野畑村で創業していましたが津波で被災。独立行政法人中小企業基盤整備機構の仮設工場無償貸与制度などを活用して、小本字小成地内に施設整備して創業することになりました。創業当初は25人程度、将来的には35人の雇用を計画しています。

ツインスターテクノロジー株式会社は、工業用や医療用のゴムパッキンを製造する会社。岩泉工場は岩泉字新田地内に建設。ともに3月下旬に創業しました。当初は5人程度、将来的には30人の雇用を計画しています。



固い握手を交わす伊達町長と2社代表

6 仮設保育園

保育園は中里へ

12月22日、中里地区に建設していた小本保育園の仮設園舎が完成し、開園式が行われました。

小本保育園は津波で浸水し、一時休園。3月23日から中野地区の「小本農村婦人の家」を借りて臨時使用していました。

仮設園舎の整備にあたっては、公益財団法人国際開発救援財団から、小本保育園仮設園舎（2年間の無償園舎貸付）整備と備品購入の支援申し出を受けて整備しました。



テープカットで開園を祝う関係者

7 仮設校舎

小中学校は大牛内へ

1月19日、小本小学校大牛内分校（児童10人）の敷地内に建設していた小本小学校（太田勝浩校長、児童76人）と小本中学校（小野佳保校長、生徒38人）の応急仮設校舎が完成し、3学期の始業式が行われました。

同校は東日本大震災の津波で被災し、岩泉小学校と岩泉中学校を間借りしていました。

今回完成した応急仮設校舎は、町内業者が木造で建てたもの。ペアガラスや断熱材で十分な耐寒性を確保しました。

小本中学校の始業式では、「皆さんの学校が出来ました。この校舎の完成は、修学旅行で皆さんが国会議員に会って要望したこと、町長との意見交換会で思いを伝えた結果だと思う。町の人や地域の人など多くの人のおかげで実現したもの。感謝の気持ちを忘れないでほしい」という校長先生の言葉に、新たな生活の決意を固めていました。



仮設校舎での始業式（小本中学校）

8 複合施設

小本支所等複合施設の整備構想

- ◆整備予定場所……岩泉町小本字南中野 241 番地
- ◆整備予定規模……鉄筋コンクリート造 3 階建、延べ床面積 1.632.00㎡
- ◆整備予定内容……支所機能、駅機能、診療所機能（医科・歯科）、避難所機能、防災機能、集会所機能
- ◆各階別機能……1 階：診療所機能（医科）、防災機能
2 階：支所機能、駅機能、集会所機能
3 階：診療所機能（歯科）、避難所機能
- ◆総事業費概算額……約 9 億円
- ◆国の支援事業……都市防災総合推進事業（補助率 2 / 3）
- ◆整備予定……平成 24 年度に整備着工すべく、国と補助制度について協議中

●小本観光センター概要（敷地面積 3,474.904㎡）

- 1 階部分（204.807㎡）……売店 93.141㎡、切符売り場兼倉庫 12.882㎡、トイレ 41.549㎡（男性用 17.808㎡、女性用 23.741㎡）、その他 57.235㎡（更衣室 7.871㎡、通路 6.524㎡、階段倉庫 42.840㎡）
- 2 階部分（225.633㎡）……案内所、事務室 27.173㎡、仮設小本支所 91.666㎡、コンコース 55.706㎡、ホール・階段 15.477㎡、階段 35.611㎡

●旧小本生活改善センター概要（敷地面積 1,014.66㎡）

- 1 階部分……トイレ 17.82㎡、大集会室 129.6㎡、支所事務室 74.92㎡、宿直室 16.4㎡、湯沸室 1.62㎡、衣・住生活実習室 36.0㎡、食生活実習室 48.0㎡
- 2 階部分……和室 48.0㎡、学習室 51.2㎡

9 被災地の建築制限せず

漁業集落防災機能強化事業を導入

2月23日、町役場会議室で第4回町東日本大震災復興委員会が開催され、災害復興事業と復興交付金事業について審議しました。会議では事務局が平成23年度から27年度までの具体的な復旧復興事業を説明、委員からは活発な意見が相次ぎました。

豊島正幸委員長は、事務局からの事業計画の説明に対し、「震災前に住んでいた土地に建築制限がかからない漁業集落防災機能強化事業を導入したことで、住民の意見を最大限盛り込んだ計画となった」と評価しました。

委員からは「三陸鉄道小本駅周辺の移転候補地の整備と、被災した小本地区を守る河川堤防の整備はどちらが早いのか」、「小本地区の具体的な土地利用計画を示してほしい。制限がないがゆえに元住んでいた土地が使えるのかどうか判断できないでいる」といった意見が出されました。洪水対策や河口閉塞対策についても万全の対策を施すよう求めました。また、「仮設住宅に暮らす高齢者などは今もなお前向きな気持ちを持ってないでいる。今の段階でここまできているという説明を聞かせて元気づけてほしい」

という声も聞かれました。

用地交渉が本格始動

町ではこれまでに住民説明会や、アンケート調査、戸別訪問で今後の住居などについて意向を聞き取ってきました。災害公営住宅の需要についてもおおむね集約し、その整備も計画しています。

豊島委員長は、「大切なのは住民の合意。個々の住民の意見を吸い上げて、みんなが望む形を作っていかなければならない」と加えました。町はこれから個々に具体的な計画内容を説明しながら、用地確保のための交渉を続けることとしています。

V 今後の課題など

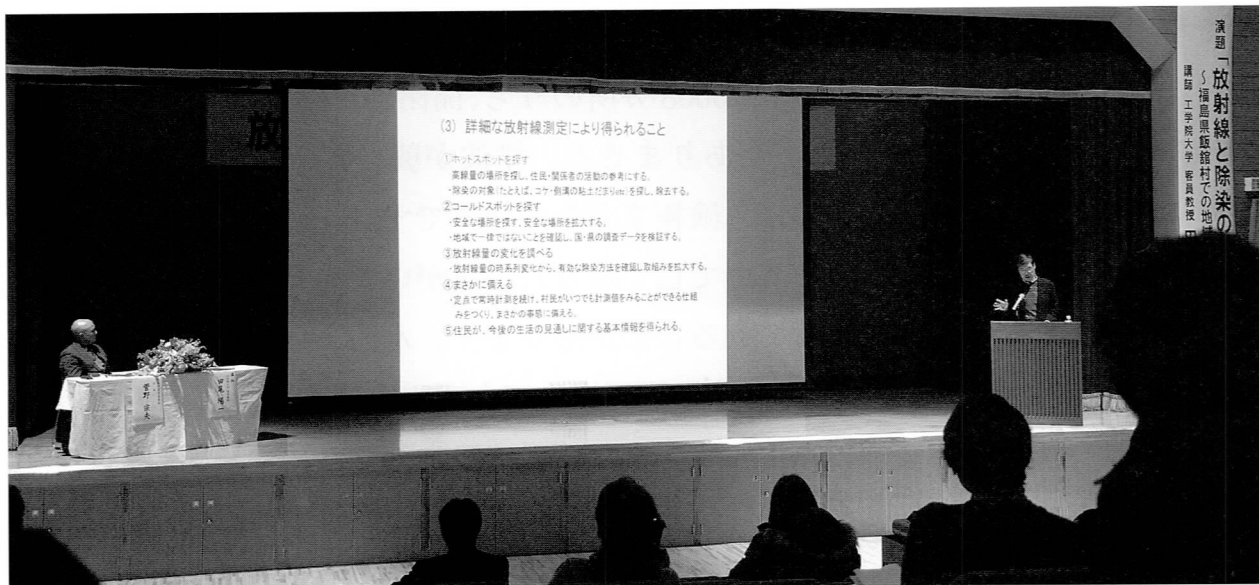
1 放射能影響対策本部の設置

7月6日、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、放出された放射性物質の本町への影響について、検討及び対策を協議するため、「町東日本大震災による放射能拡散影響対策連絡会議」を設置しました。

7月4日から6日にかけて町教育委員会で行った簡易測定では、各小中学校、こども園、保育園などの放射線量を測定しましたが、健康に影響を与えるレベルではありませんでした。また、7月15日には、専門業者に依頼して、役場各支所で放射線量を測定しましたが、健康に影響を与えるレベルではありませんでした。

しかし状況は治まることなく、8月1日には国から「県内において飼養されている牛（12月齢未満の牛のものを除く）について、当分の間、県外への移動や畜場への出荷を差し控えること」と指示が出され、また、県では米、りんご、秋サケなどの主要農水産物について独自に放射性物質調査を実施するなどさまざまな分野への影響が懸念されるため、8月1日に「町放射能影響対策本部」を設置しました。

対策本部では、放射能などについての調査、測定を実施し、町民への情報発信を行い、また、県や各関係機関への要望活動を実施することとしました。



町民会館で開催された放射線と私たちの健康を考える講演会

2 最前線にいた消防団

●消防団員の犠牲

消防団員は普段は会社員だったり、農業や漁業などの仕事をもっている人が、火事が起きたり、地震や津波、水害などが発生した際には、仕事を中断して、すぐに現場に駆けつけて防火や防災活動にあたります。非常勤の特別職地方公務員として位置付けられていますが、報酬は一般の団員の全国平均で、1年間におよそ2万5000円、一回の出動手当が3300円ほどですから、生半可な気持ちでは続けられないボランティア精神に支えられた仕事です。

総務省消防庁のまとめでは、東日本大震災で犠牲になった消防団員は、岩手県が119人、宮城県が107人、福島県が27人の、合わせて253人にのぼっています。同じ東北3県で犠牲になった消防本部の職員は27人、警察官は30人で、消防団員の犠牲者は際立って多くなっています。また、過去の大きな災害と比べても今回の犠牲者は多くなっています。

これまでに消防団員が犠牲になった災害は、昭和34年の伊勢湾台風が63人、昭和47年の高知県の土砂災害が15人、平成3年の雲仙普賢岳の火砕流災害が12人でした。

大震災での主な仕事は水門などの閉鎖と住民の避難誘導、それに地震後の長い捜索活動。分団員の多くが被災者でありながら活動を続けました。

●最前線にいた消防

どんな対策が必要でしょうか？一つは、水門の閉鎖を安全に行えるようにすることです。多くの消防団が津波警報がでた際に水門を閉鎖する役割を担っていますが、現在、全国の海岸の堤防にある水門6668カ所のうち、開閉が自動化されているのは、全体の11%にあたる742カ所しかありません。津波が襲ってくる中、避難とは逆に海に近づいて水門を閉めるのは危険極まりない仕事です。

実際に、水門の閉鎖にあたって亡くなった団員がいますし、地震の起き方によっては、数分で大津波が襲ってくることがあります。水門を自動的に閉鎖できるようにしたり、高台の安全なところから遠隔操作できるようにする必要があります。

2つ目は、無線など装備の充実です。市町村の消防本部では、平均的な5人乗りのポンプ車の場合、現場に向かう隊長と消防自動車に残る運転手の二人が消防無線を持つようになっていますが、消防団の装備は自治体によってまちまちです。消防団も消防本部の職員と変わらない危険な現場で活動しています。仕事に見合った装

備が必要です。

●消防団と地域の防災

消防団というと火事の消火や防災活動のイメージが強くありますが、今や地域のさまざまな活動でなくてはならない存在です。

最近の消防団の活動状況を見ると、住宅火災や山火事の消火、火災予防や防災の指導、地震や津波などの際の特別警戒や避難誘導、風水害の時の土のう積み、行方不明者の捜索といったさまざまな現場に出かけています。

かつて地域には、青年団や婦人会などがあって活発に活動していましたが、農業や漁業の後継者が減ったり、小さな商店がなくなるなど産業構造が変化したり、高齢化の進展などの影響で、多くの住民組織が弱体化し、今やいざという時に集団で活動できる組織は消防団しかないという声をよく聞きます。

消防団員が災害で亡くなった際の補償をしている消防基金によると、東日本大震災で、消防団員が亡くなった原因として最も多いのが住民の避難誘導中というもので、全体の50%を占めています。中には、逃げなくてもいいと言う住民を説得していて、一緒に津波に巻き込まれた消防団員もいました。被災地で取材すると、逃げない住民をそのままにして、自分が避難することはできないという消防団員が数多くいました。

したがって消防団の安全を確保する面からも、津波の犠牲者を減らす面からも、地域ぐるみの対策、つまりは地域のコミュニティの力、地域の防災力を高めることが重要です。

日ごろから、一人では避難できない高齢者などについて、消防団を交えて話し合っ
て避難態勢を整備し、訓練を繰り返しておくとともに、助けがなくても避難できる人は危険が迫ったら、自ら進んで避難することを確認しあっておくことが重要です。

大震災で犠牲になった消防団員の年齢を見ると、多いのは40歳代と30歳代で、ともに30%前後を占めています。まだ子どもが小さい働き盛りの年代です。消防団の安全対策を早急に検討し実施するとともに、犠牲になった団員への十分な補償が必要です。

地震直後は消防団の退避優先…消防庁の報告案

東日本大震災の津波で多数の消防団員が犠牲になったことを受け、消防団の安全確保策について話し合ってきた総務省消防庁の検討会は平成24年3月5日、津波の恐れがある地震発生直後は消防団の退避を優先させ、水門閉鎖や避難誘導も最小限にとどめるとする中間報告案に大筋で合意しました。

9日の正式な報告の後、同庁は各市町村に対し、退避ルールを明確にした安全管理マニュアルの整備を求めていくことになります。

昨年の震災では岩手、宮城、福島3県で計254人の消防団員が死亡・不明となりました。活動中は197人で、このうち避難誘導中が118人。水門閉鎖中は3人でしたが、閉鎖に携わったのは59人に及んでいました。

報告案は多数の犠牲が出た要因について、1人の団員が平均2・9か所、多い人で10か所以上の水門の閉鎖や確認作業を行うなど過重な任務を負っていたことや、団員の退避基準が明確に定められていなかったことを挙げました。



水門と船

3 震災から1年を迎えて

●震災支援金、総額5千億円を突破 ボランティア100万人に

平成24年3月7日、共同通信は東日本大震災からの復興や被災者の生活再建に向けた義援金などの総額が5千億円を突破したと報じました。

岩手、宮城、福島 の3県や日本赤十字社などに寄せられた義援金、海外からの救援金、クウェート政府による原油の無償提供など国内外からさまざまな善意が集まりました。3県でのボランティア活動に参加した人も延べ100万人に達したもようです。

震災から1年近くが経過しても日赤には1週間当たり数億円の義援金が届いています。日赤や中央共同募金会など4団体は3月末で終える予定だった義援金の受け付けを9月末まで延長します。

●沿岸被災地の人口5万5千人減 税収落ち、復興に影響

3月6日、共同通信は東日本大震災後、岩手、宮城、福島 の3県の沿岸37市町村で、震災前と比べて人口が計5万5662人減っていることが6日、各県への取材で分かったと報じました。津波被害の大きかった大槌町など5市町は1割以上減りました。転出届を出さずに避難している人も多く、実際はさらに多数の人が沿岸被災地を離れているとみられます。

被災地では人口減のほか企業の操業ができなくなった影響で税収も大きく減少。被災地復興への影響が懸念されます。

各県がまとめた昨年3月1日と今年2月1日の人口を比較すると、37市町村の2月1日の人口は245万2183人で、昨年3月1日より2.22%減っていました。

●がれき受け入れ86%が難色 放射性物質の拡散懸念

3月3日、東日本大震災をめぐり共同通信が実施した全国自治体アンケートで、岩手、宮城両県のがれきの受け入れについて、回答した市区町村の33%が「現時点では困難」、53%が「まったく考えていない」とし、全体の86%が難色を示していることが分かりました。11日で震災1年を迎える中、放射性物質が拡散するとの懸念がくすぶり、広域処理は進んでいません。26年3月末までに処理を終える政府目標の達成は困難な情勢です。

調査は2月、都道府県と市区町村の計1789自治体を対象に実施。がれき処理関連は、1742市区町村のうち1422市区町村(82%)が回答した結果を集計しました。

●がれき処理費用、全額を国負担 広域処理で環境省

3月5日、細野豪志環境相は、東日本大震災により岩手、宮城両県で発生したがれきを被災地以外で処理する「広域処理」を進めるため、受け入れ先の自治体に対する追加支援策を発表しました。放射線量の測定や住民説明会の開催にかかる費用、焼却場の減価償却費を含めた処理費用を全額国が負担することや、焼却灰などの最終処分場の新設、拡充が必要になった場合の経費も支援します。

政府はこれまで、受け入れ先の自治体に負担が生じないように、がれきの運搬、処理費用を負担してきました。細野氏は追加措置により「費用負担への不安がかなり解消されるのではないか」と記者団に述べ、広域処理の拡大に期待を示しました。

●津波到達点、標識設置し後世に 3県共通で

東日本大震災の津波被害の記録を後世に残し、被害の減少につなげようと岩手、宮城、福島3県と国土交通省は、津波到達点を示す共通の標識を沿岸部の国道や海岸堤防、主要港などに設置する取り組みを始めることになりました。

宮城県が呼び掛け、国交省東北地方整備局と岩手、福島両県が賛同。デザインを統一し、国や3県がそれぞれ所管する施設に看板を設置する方針です。「3.11 伝承・減災プロジェクト」と名付けられました。

標識は、青地に白で津波を示すマークに「2011. 3. 11 東日本大震災 津波浸水深ここまで」と浸水した高さを示す線を引きました。サイズは縦1・2メートル、横30センチなど計4種類を用意しました。

●NHKラジオ、宮城で県域放送 岩手でも、4月から

NHKは岩手県で週1回のローカル番組をスタートさせます。東日本大震災に関する情報などを地元の聴取者に詳しく伝えていくと伝えます。月曜午後7時45分から15分間、震災復興を特集する盛岡放送局制作の「がんばろう！いわて」を放送します。

●震災被災者、4割に睡眠障害 岩手・宮城、抑うつ症状も

3月6日、岩手県と宮城県の被災者で、睡眠障害の疑いがある人の割合は約4割と全国平均より高く、不安・抑うつ症状を訴える人も多いとの健康調査結果を厚労省研究班がまとめました。

大震災から1年、被災者の健康に深刻な影響が出ている実態が判明しました。

調査対象は、宮城県が石巻市の雄勝・牡鹿地域、仙台市若林区の仮設住宅、石巻市の網地島の3地区計約2200人。岩手県は陸前高田市、山田町、大槌町の1市2町で計約1万人。

睡眠障害の疑いがある人の割合は、過去の全国調査の28.5%に対し、若林区46.8%、大槌40.0%、陸前高田38.0%でした。

津波の教訓

東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震の最大震度は7、岩泉町では4でした。この地震を経験したわたしたちは、ともすれば比較的震度の数字が小さいと津波はこないと勝手な判断をしてしまいがちです。

東日本大震災の津波による浸水面積が近かったといわれる「明治三陸津波」。このときの最大震度は秋田県仙北町で4、太平洋沿岸では2から3だったといわれます。しかし、震度こそ小さかったもののマグニチュードは8を超えていて、太平洋側に甚大な被害をもたらしました。

その37年後、「昭和三陸津波」が発生。最大震度は明治のそれよりも大きい5でしたが、明治三陸津波を経験した人の中には「ゆっくり地震ではないので、津波は来ない」といった誤った判断をして被災した例があったと伝えられます。

そして今、日本各地で連日地震が起こっている中で「この程度のゆれなら大丈夫」と思ってしまうのはとても怖いことです。携帯電話などの地震情報サービスも「震度4以上」で設定している人も多いのではないのでしょうか？地震があったら正確な情報を得るよう心掛けましょう。



三陸大海嘯記念碑（茂師）



被害総括表

1 地震の概要

項目	時刻	対応
地震発生	3月11日 午後2時46分ころ	岩泉町震度 4
大津波警報発令	午後2時49分	災害対策本部設置 (職員2号非常配備)
避難指示	午後2時54分	防災行政無線で避難指示
津波最大波到達	午後3時28分ころ	小本、中野、茂師、小成地区に津波襲来
津波警報に切り替え	3月12日 午後8時20分	
津波注意報に切り替え	3月13日 午前7時30分	
津波注意報解除	午後5時58分	同時刻で避難指示解除

2 死亡者数 11人

氏名	年齢	生年月日	住所	被災場所
三浦 昭 八	77歳	S08.12.18	小本字小本 14-1	小本
箱石 靖 江	56歳	S29.12.22	小本字小本 48	小本
箱石 武 雄	81歳	S04.05.03	小本字小本 14-1	小本
穂高 鶴 治	71歳	S14.09.27	褓野字愛羅 34	田野畑村
藤田 剛 志	37歳	S48.09.20	岩泉字和川原 11-1	宮古市田老
金澤 美 樹	27歳	S58.11.01	小本字小成 172-2	宮古市田老
佐々木 キヨエ	91歳	T08.11.01	下有芸字立石 31	宮古市田老
田村 英 樹	46歳	S39.10.25	岩泉字横道 3-12	宮古市田老
川代 清 一	58歳	S28.06.11	門字見内川 99-134	宮城県石巻市
三浦 暢 之	29歳	S57.02.07	小本字小本 6-26	関連死
武田 通 孝	34歳	S51.12.05	中里字出畑 6-2	小本

3 避難者数（4月25日現在）

避難場所	現在（4/25）
岩泉町民会館	24
ふれんどりー岩泉	-
どんぐり苑	12
龍泉洞温泉ホテル	150
ふれあいらんど岩泉コテージ	35
小成コミュニティセンター	-
箱石イク宅付近	-
ホテル龍泉洞愛山	-
合 計	221

4 被害家屋数（4月25日現在）

被害程度	棟 数	内 訳
全 壊	177	流出 80、全壊 97
大規模半壊	10	
半 壊	13	
一 部 損 壊	8	地震による破壊6棟含む
合 計	208	

東日本大震災被害額

2011/6/2 作成

担当課名	被害内容	被害額	内 訳
総務課	小本支所	32,750	
	防災行政無線	18,000	
政策推進課	バス関係	609	町民バス小本バス停
	パソコン関係	879	住民情報システム端末一式ほか 666,750 円 支所職員パソコン 2 台 212,000 円
税務出納課	家屋	480,713	課税標準
町民課	老人センター	1,263	
	窓口証明システム	861	
保健福祉課	小本保育園	46,899	建物分 44,100 千円、備品 2,799 千円
農林水産課	農地関係	848,000	水田 21ha 284,000 千円
			畑 2ha 6,000 千円
			農業用道路 6,100 m 14,000 千円
			用水路 6,100 m 26,000 千円
			揚水機 4 カ所 10,000 千円
	水産関係	340,000	施設関係 190,000 千円
			船舶 266 隻 282,000 千円
			養殖施設 15 施設 40,000 千円
			生産物（ワカメ、コンブ） 36,000 千円
			定置 2 施設 200,000 千円
漁具 一式 100,000 千円			
経済観光交流課	茂師トイレ	1,500	
地域整備課	漁港関係	1,151,000	小本漁港
	道路関係	287,900	小本中野線ほか 9 路線
	海岸保全関係	570,000	小本漁港
	公営住宅	30,000	小本団地（3 棟 7 戸）
上下水道課	簡易水道施設	40,000	
	公共下水道	1,000	
議会事務局		0	
消防防災課	小本消防屯所	16,638	
教育委員会	学校	402,374	小本小学校 69,237 千円
			小本中学校 169,369 千円
			小本中学校教員住宅 37,768 千円
			小本中学校プール 126,000 千円
合 計		4,270,386	

単位：千円

防災関係機関の活動状況

3月12日、政府は、激甚災害指定を行う政令を閣議決定したと発表。自衛隊の災害派遣を10万人態勢としました。町内で活動した防災関係機関の活動状況は次のとおりです。

- (1) 町消防団…人命救助、宮古市田老地区の火災消火活動の応援、がれき撤去などを実施。活動期間3月11日～25日（14日間）、延べ人数1,491人
- (2) 警察…岩泉警察署、県外特別派遣部隊が人命救助、捜索、被災地警戒などを実施。県外特別派遣部隊は13県から延べ3,750人（3月12日～7月27日）
- (3) 自衛隊…陸上自衛隊第2師団（北海道）360人が、ふれあいらんど岩泉を拠点に、本町、宮古市田老地区、田野畑村などで捜索救助、物資輸送、がれき撤去などの活動を実施（3月15日～4月29日）、以後本来の支援部隊である岩手駐屯地第9師団第9特科連隊に指揮が移り、避難状況確認や自衛隊協力ニーズ調査を実施（週1回）
- (4) 東京都昭島市職員の派遣…拾得物の整理、避難所の保安業務などに従事。活動期間3月27日～4月27日（25日間）延べ100人
- (5) 高知県高知市職員の派遣…町役場地域整備課に勤務
- (6) 県、国の職員支援
 - ・ 県職員—拾得物整理 1週間 延べ30人
 - ・ 国（東北農政事務所）—救援物資の仕分け作業 1週間 延べ10人
 - ・ 国（盛岡財務事務所）—避難所の保安業務 5月1日～5月31日 延べ62人



小本地区で活動する自衛隊

地殻変動

平成23年4月3日、国土地理院は東日本大震災による市町村ごとの地殻変動データを公表しました。本県では一関市川崎町が県内最大となる約3.33メートルずれて東方向に移動していたことが分かりました。釜石市甲子町では最大約53センチの沈下が確認されました。

衛星利用測位システム（GPS）を使った測定で、県内の電子基準点のうち27地点の数値を公表しました。

水平方向への変化は最大3.33メートルだった一関市川崎町のほか、釜石市甲子町が3.32メートル、一関市大東町も3.30メートルずれました。3メートル台に達したのは3地点で、6地点が2メートル台、13地点で1メートル台の地殻変動がありました。

高さの変化では53センチの釜石市甲子町が最大で山田町織笠が47センチ、一関市大東町32センチ、一関市川崎町30センチ、遠野市松崎町24センチなどの沈下を確認しました。

今回の震災では、宮城県の牡鹿半島が震源のある東南東方向に約5.3メートル移動し、約1.2メートル沈下する観測史上最大の地殻変動があったことが明らかになっています。

町内の観測局の水平、垂直方向の変動量は次のとおりです。

●町内の地殻変動量

岩泉1（岩泉町立小本小学校大牛内分校敷地内）水平139.9cm、垂直－33.2cm

岩泉2（岩泉町立岩泉中学校敷地内）水平145.3cm、垂直－26.7cm

岩泉3（旧岩泉町立大平小中学校敷地内）水平110.5cm、垂直－14.4cm



小本漁港

地盤の緩みで大雨警報・注意報に暫定基準を設定

盛岡地方気象台は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴う大雨警報・注意報基準の暫定的な運用について報道発表。地震による地盤の緩みを考慮し、雨による土砂災害の危険性が通常より高いと考えられるため、当分の間、大雨警報・注意報の土壌雨量指数基準について、通常基準より引き下げた暫定基準を設けて運用しました。

対象とする二次細分区域(市町村)	対象とする警報・注意報の種類	基準の要素	暫定基準の通常基準に対する割合
宮古市、大船渡市 久慈市、陸前高田市 釜石市、大槌町 山田町、岩泉町 田野畑村、普代村 野田村、洋野町	洪水警報・注意報	雨量	6割
		流域雨量指数	7割
	浸水害を対象とする 大雨警報・注意報	雨量	6割

地盤沈下で高潮に注意呼びかけ

地震により、東北地方から関東地方北部にかけての太平洋沿岸の広い範囲で地盤が大きく沈下したため、海岸や河口付近の低地で、満潮前後の時間帯を中心に浸水や冠水のおそれ地震前より高まっています。注意が必要として注意を呼び掛けました。特に、大潮の時期に低気圧の通過などがあった場合は、さらに潮位が上昇する可能性があり、地盤沈下の大きな地域に対しては高潮注意報で注意を呼びかけました。



台風で浸水した小本地区

巨大地震後 有感地震 1万回超

平成24年3月8日、東日本大震災のあと約1年間で震源域の周辺など全国で起きた体を感じる地震の回数は1万回を超え、震源から離れた内陸でも地震活動が活発なことから、気象庁は、今後も強い揺れを伴う地震に注意するよう呼びかけました。

気象庁によると、去年3月の巨大地震から今年7日までに全国で起きた震度1以上の地震の回数は1万119回に達し、おととし1年間に起きた地震の8倍近くに上りました。

このうち、およそ70%にあたる7224回は、東北や関東の沿岸などで起きた巨大地震の余震ですが、さらに離れた東北や関東甲信の内陸でも活発な地震活動が続いています。

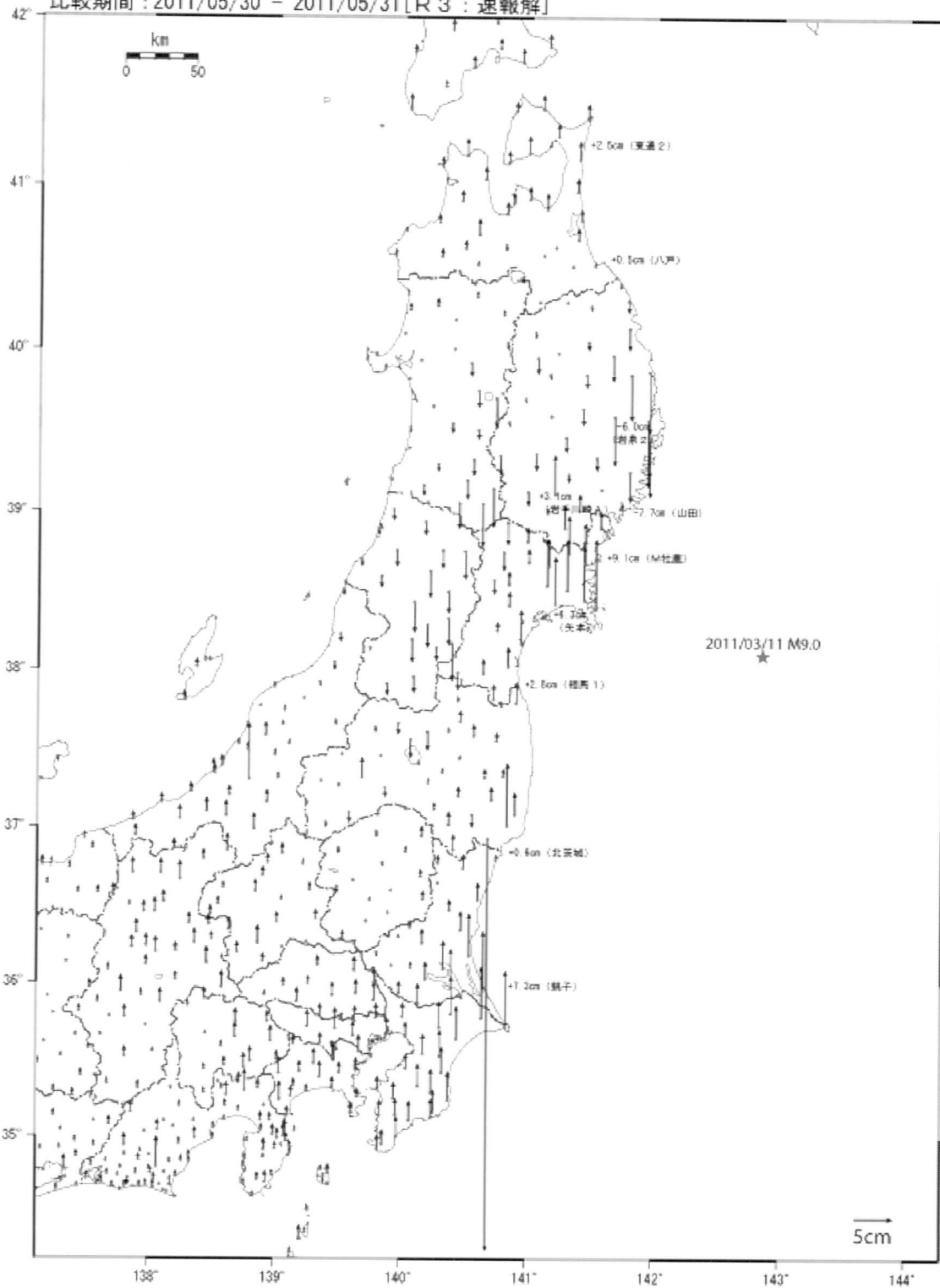
気象庁は、巨大地震のあと、日本列島の広い範囲で東へ引っ張られる地殻変動が起きているため、地震が誘発されているとみています。

地殻変動（上下）

東北地方太平洋沖地震(M9.0)後の地殻変動（上下）－累積－ 別紙8-4

基準期間：2011/03/12 - 2011/03/12 [F 3：最終解]

比較期間：2011/05/30 - 2011/05/31 [R 3：速報解]



[基準：F 3最終解 比較：R 3速報解]

☆固定局：釜江（長崎県）

※東北地方太平洋沖地震に伴い、つくば1（茨城県）が変動したため、2011/3/11以降の03、R3解析においては解析時の国定点を与論（鹿児島県）へ変更している。

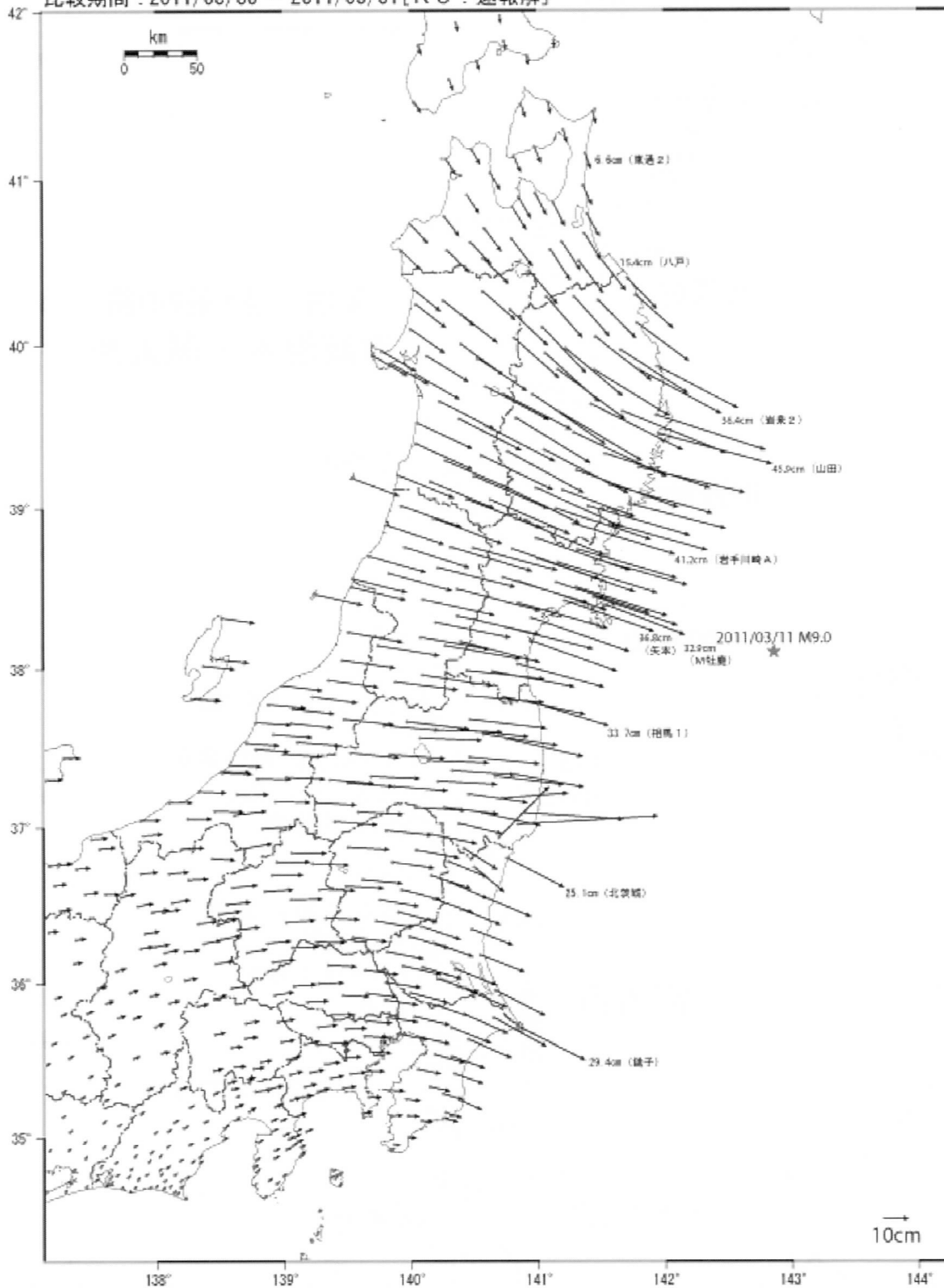
国土地理院

地殻変動（水平）

東北地方太平洋沖地震(M9.0)後の地殻変動（水平）－累積－

別紙 8 - 2

基準期間：2011/03/12 - 2011/03/12 [F 3：最終解]
 比較期間：2011/05/30 - 2011/05/31 [R 3：速報解]



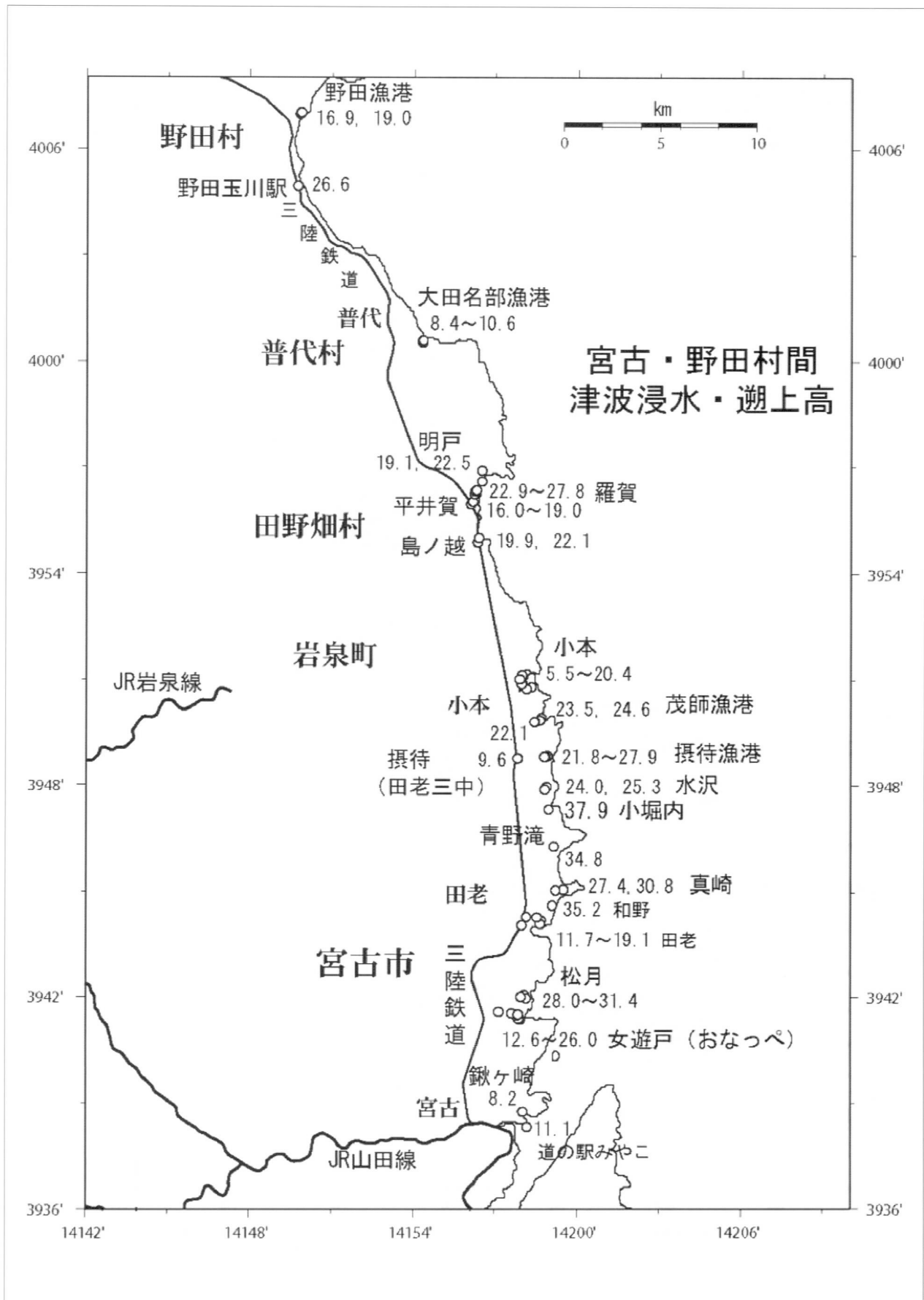
【基準：F 3最終解 比較：R 3速報解】

☆西定局：福江（長崎県）

※東北地方太平洋沖地震に伴い、つくば1（茨城県）が変動したため、2011/3/11以前の93、R3観測においては観測時の固定点を与論（鹿児島県）へ変更している。

国土地理院

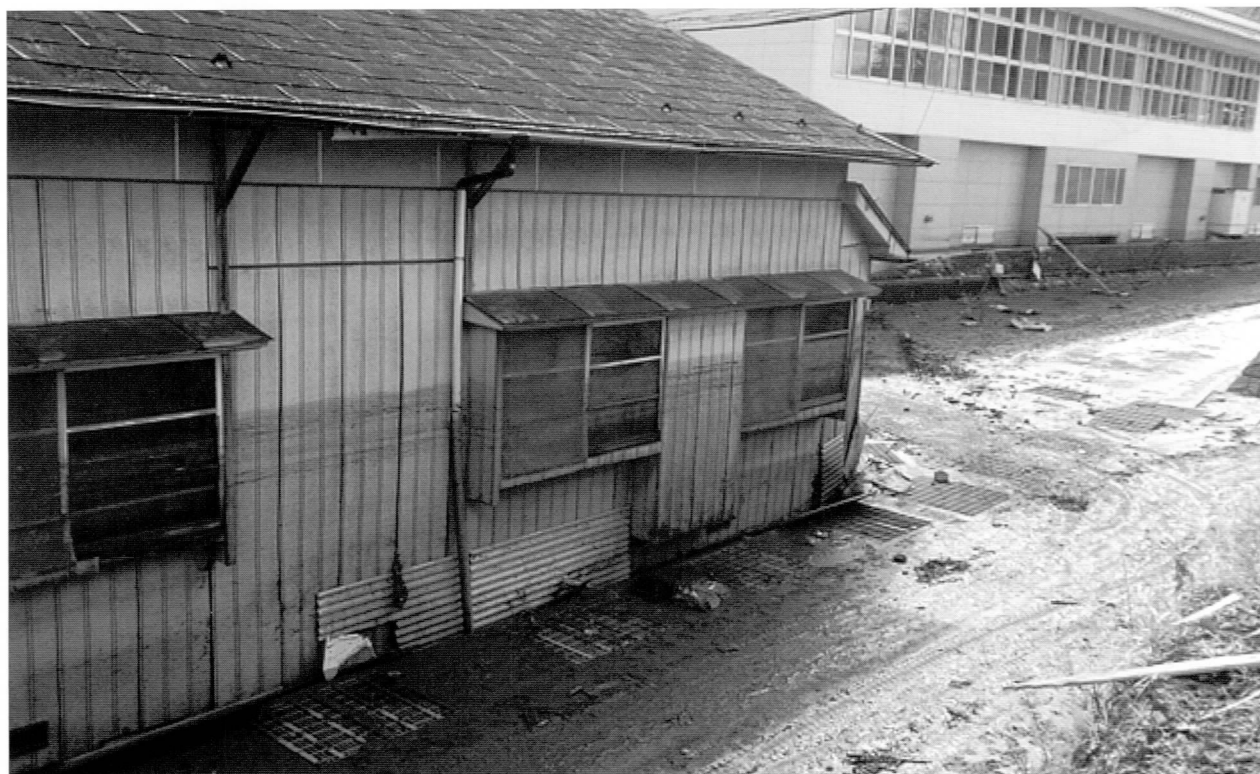
津波浸水・逆上高



最大遡上痕と浸水深

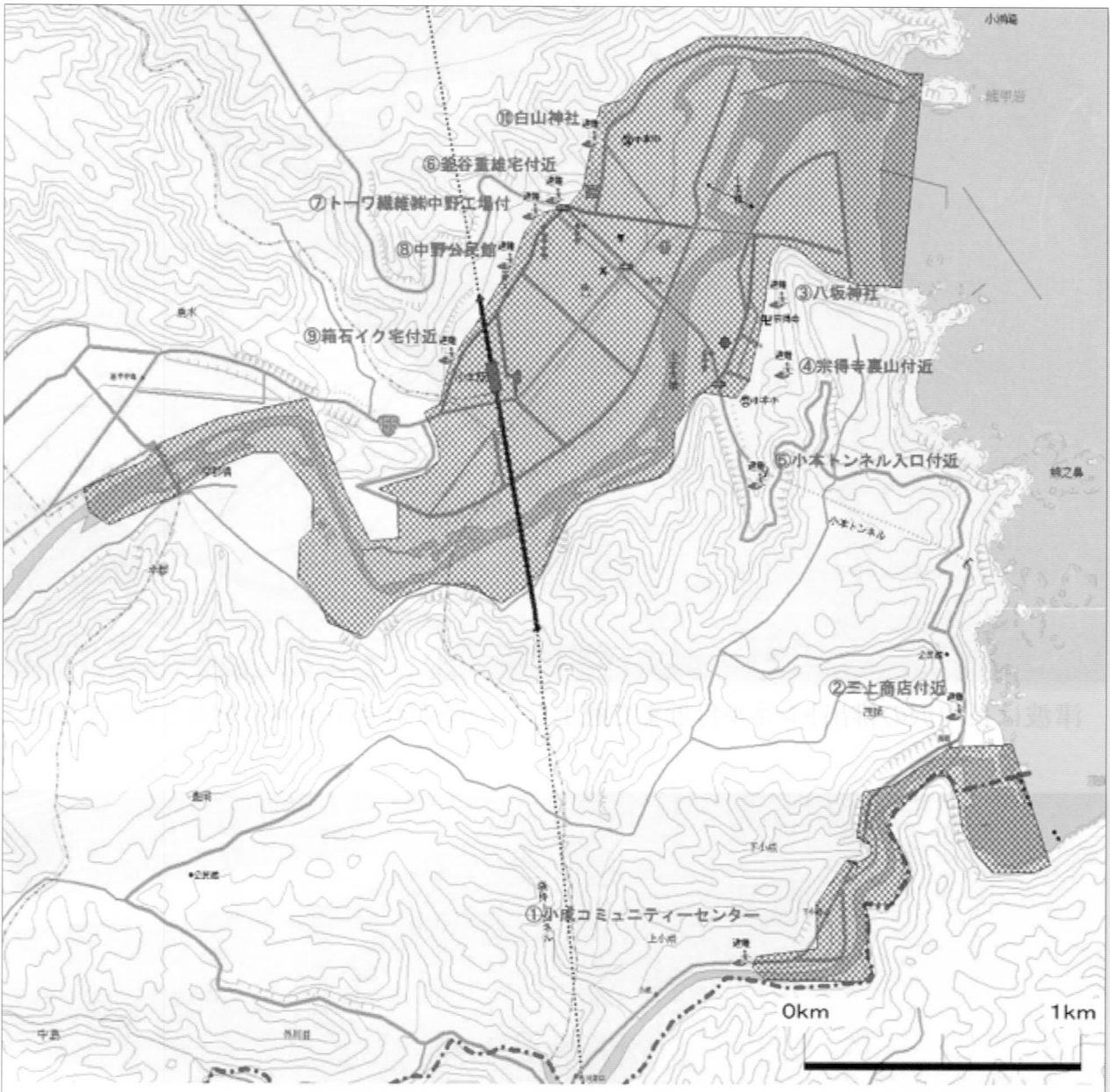


津波は長内沢の排出トンネル付近まで遡上し、一時がれきが小本川をせき止めました



東京大学地震研究所の調査では、小本で5.5～20.4メートル、茂師で23.5、24.6メートルの浸水高を記録しました

岩泉町津波防災マップ



凡例

	津波危険区域
	避難場所

避難場所一覧

避難対象地域	避難場所	所在地
1 小成	小成コミュニティセンター	小本字小成133-2
2 茂師	三上商店付近	小本字茂師1
3 小本1	八坂神社	小本字小本
4 小本1・小本2	宗得寺裏山付近	小本字小本
5 小本1・小本2	小本トンネル入口付近	小本字内の沢
6 小本1・中野1	釜谷重雄宅付近	小本字中野10-12
7 中野1	トーフ織維絨中野工場付	小本字下中野
8 中野1・中野2	中野公民館	小本字中野
9 中野2	箱石イク宅付近	小本字中野31-3
10 中野1	白山神社	小本字中野64

県内の人的被害状況

東北地方太平洋沖地震に係る人的被害・建物被害状況一覧

岩手県 総務部 総合防災室
平成23年12月21日 17:00時点

	死者（人）	行方不明者(人)		負傷者(人)	家屋倒壊数(棟)
		うち、死亡届の受理件数(件)			
陸前高田市	1,554	298	236	不明	3,341
大船渡市	339	91	74	不明	3,629
釜石市	885	169	156	不明	3,641
大槌町	802	505	466	不明	3,717
山田町	604	165	156	不明	3,167
宮古市	420	114	91	33	4,675
岩泉町	7	0	0	0	197
田野畑村	14	15	14	8	270
普代村	0	1	1	1	0
野田村	38	0	0	17	479
久慈市	2	2	2	10	277
洋野町	0	0	0	0	26
沿岸小計	4,665	1,360	1,196	69	23,419
内陸小計	0	11	5	119	1,317
総計	4,665	1,371	1,201	188	24,736

※1 死者数は県警調査（平成23年12月21日17:00現在・当該市町村で収容した死者数）、行方不明者、行方不明者に関する死亡届の受理件数及び負傷者数は市町村報告による。

注）行方不明者は、家族等の住民から各市町村へ寄せられた安否不明の人数を計上したものの。

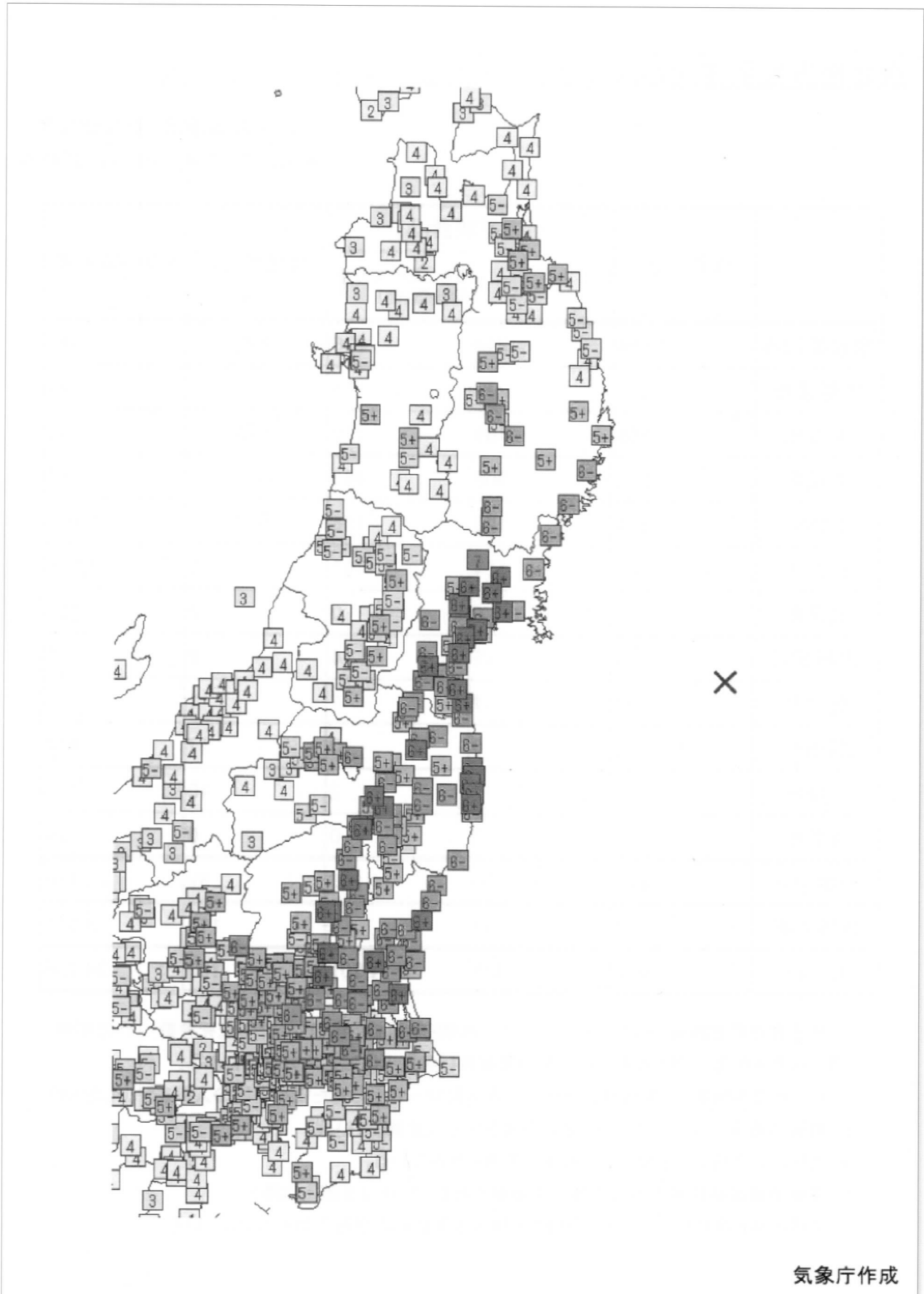
※2 被害の概況については、沿岸部の情報を中心に提供している。

※3 上記には平成23年4月7日の余震の被害も含めている。

※4 家屋倒壊数は住家のみでの全壊＋半壊数である。（4月12日報告以降）

※5 平成23年6月30日から、行方不明者に関する死亡届の受理件数を計上している。

震度分布図



震源の比較



津波年表

時代区分	平安時代	鎌倉時代	南北朝時代	室町時代	戦国時代	安土桃山時代	江戸時代							
時代区分の範囲	8世紀末～12世紀末	12世紀末～14世紀	14世紀	14世紀～16世紀	15世紀後期～16世紀後期		慶長8年～慶応3年							
西暦の範囲	794年～1185年	1185年～1333年	1336年～1392年	1392年～1467年	1467年～1573年	1573年～1603年	1603年～1867年							
ユリウス歴	869年7月9日	1257年10月2日		1454年12月12日										
グレゴリオ歴	869年7月13日					1585年5月14日	1611年12月2日	1616年	1651年	1676年	1677年4月13日	1687年	1689年	1696年
和暦	貞観11年5月26日	正嘉元年8月23日		享徳3年11月23日			慶長16年10月28日	元和2年	慶安4年	延宝4年	延宝5年	貞享4年	元禄2年	元禄9年
地震名称など	貞観地震	※「岩手県沿岸大海嘯取調所」に鎌倉の地震と同時に三陸海岸で津波があったと記録		享徳地震「王代記」に奥州に大津波の記述あり		(津波襲来)	慶長三陸地震				延宝十勝沖地震			
マグニチュード	8.3-8.6						8.1				7.4-7.9			
年前	1142年前	754年前		557年前		426年前	400年前				334年前			
最大震度							4～5				5程度			
主な事件	アテルイ(802年没)						盛岡城築城(1598年)							

江戸時代				明治時代				大正時代	昭和時代			平成時代	
慶長8年～慶応3年													
				1868年～1912年				1912年 ～1926年	1926年～1989年			1989年～	
1716 ～ 1735年	1763年 1月29日	1781 ～ 1788年	1793年 2月17日	1835年	1856年 8月23日	1868年	1894年	1896年6月15日		1933年 3月3日	1968年5月16日	1994年12月208日	2011年3月11日
享保年間	宝暦13年	天明年間	寛政5年1月7日	天保6年	安政3年	明治元年	明治27年	明治29年		昭和8年	昭和43年	平成6年	平成23年
	宝暦十勝沖地震		寛政地震(宮城県沖地震)		安政十勝沖地震			明治三陸地震		昭和三陸地震	十勝沖地震	三陸はるか沖地震	東北地方太平洋沖地震
	7.4-7.9		8.0-8.4		7.5-7.7			8.2-8.5		8.1	7.9	7.6	9.0
	248年前		218年前		155年前			115年前		78年前	43年前	17年前	
	5程度		6程度		5程度			4		5	5	6	7

明治、昭和、平成の津波比較

年 号	明治29年	昭和 8 年	平成23年
西暦	1896年	1933年	2011年
月日	6月15日	3月3日	3月11日
地震発生時刻	午後 7 時32分30秒	午前2時30分48秒	午後 2 時46分18秒
震源	三陸沖	三陸沖	三陸沖
震源緯度	39度5分	39度7分7秒	38度6分12秒
震源経度	144度	145度7分	142度51分36秒
震源距離	約200km	約200km	約130km
震源の深さ	不明	約20km	約24 k m
地震の規模	M8.5	M8.1	M9
地震の種類	海溝型	正断層型	海溝型
最大震度	4	5	7
津浪襲来時刻	午後8時7分	午前3時5分	午後3時28分
最大津浪高	38.2m (三陸町綾里)	28.7m (三陸町綾里)	38.9m (宮古市)
死者数	21,915人	1522人	15,854人
流失家屋数	9,878戸	4,885戸	全壊129,489戸

明治三陸津波

岩手県の被害

(単位：人、戸)

既存資料	人 口				家 屋			
	罹災前人口	死者	負傷者	家族全員死亡世帯	罹災前戸数	流出破壊	倒壊	浸水
「岩手広報」(明治29年7月31日)	-	18,158	2,943	728	-	6,039	-	-
「哀史三陸大津波」	76,114	18,158	602	-	12,003	5,183	853	-
「三陸津波に因る被害町村の復興計画報告書」	-	28,948		-	-	5,446		-

小本村の被害

(単位：人、戸)

既存資料	人 口				家 屋			
	罹災前人口	死者	負傷者	健在者	罹災前戸数	流出家屋	破壊	存在家屋
「震災予防調査会報告第11号」	2,090	367	257	1,466	386	156	147	83
「三陸地方防潮林造成調査報告書」、「三陸津波に因る被害町村の復興計画報告書」	-	367	257	-	-	330	-	-
「岩手広報」(明治29年6月25日)	2,090	367	157	1,466	386	156	347	83
「風俗画報」	-	338	-	-	-	110	-	-
「哀史三陸大津波」	2,090	367	257	-	386	156	147	-
「岩手県昭和震災誌」、「震浪災害土木誌」	2,090	367	257	-	386	330	-	-
「岩泉地方史〈下巻〉」	-	271	-	-	-	83	-	-

昭和三陸津波

小本村の被害状況

既存資料	人 口				家 屋			
	罹災前人口	死者	負傷者	行方不明	罹災前戸数	流出	倒壊	浸水
「岩手県昭和震災誌」	1,288	108	29	9	220	75	5	50
「震浪災害土木誌」	-	108	29	9	-	74	8	-
「三陸地方防潮林造成調査報告書」	2,700	155	32	-	480	89	5	50
「三陸地方海嘯災害予防調査復命書」(第3区)	1,288	-	-	-	220	-	-	-
「三陸津波に因る被害町村の復興計画報告書」	1,288(S7)	111	26	7	220	82		44
「震嘯史資料」	-	188	34	37	-	89	5	50
「哀史三陸大津波」	1,288	108	29	9	220	89	5	50

小本尋常高等小学校における被害

既存資料	在籍児童数	罹災児童数		教員数	罹災教員	
		死亡	家屋などの被害児童		死亡	家屋などの被害教員
「岩手県昭和震災誌」	325	22	72	8	1	1
「岩泉地方史〈下巻〉」	325	22	72	8	1	1
「震嘯史資料」	-	22	50	-	-	-

三陸自動車道

6月30日、政府、民主党は仙台市から青森県八戸市までの三陸沿岸を結ぶ高速道路の三陸北縦貫道路など3路線計364キロを東日本大震災の「復興道路」として、全線整備する方向で最終調整しました。

国土交通相が7月1日、建設の方針が未定だった3路線の計約10区間についてルートのだたき台などを公表、地元自治体と協議し、8月中にルートをほぼ固め、平成23年度第3次補正予算に測量や設計に必要な経費を計上。

11月20日、田野畑村で復興道路着工式を開催。12月7日、三陸国道事務所と町は三陸沿岸道路（岩泉町中島～小本間）と町震災復興整備事業を進めるため、測量・地盤調査に伴う土地立ち入り説明会を開催。

12月26日、小本の整備予定地で、三陸沿岸道路（宮古市田老～岩泉町小本間）の中心杭設置式を開催。中心杭は整備ルートの道路幅の中心線となり、道路設計の測量の基本となるもの。現在、小成地区などで測量・地盤調査を実施中。県では、復興道路が完成すると久慈～宮古間の所要時間が35分短縮されると試算しています。

～新しい岩泉町の再生・振興を決議～

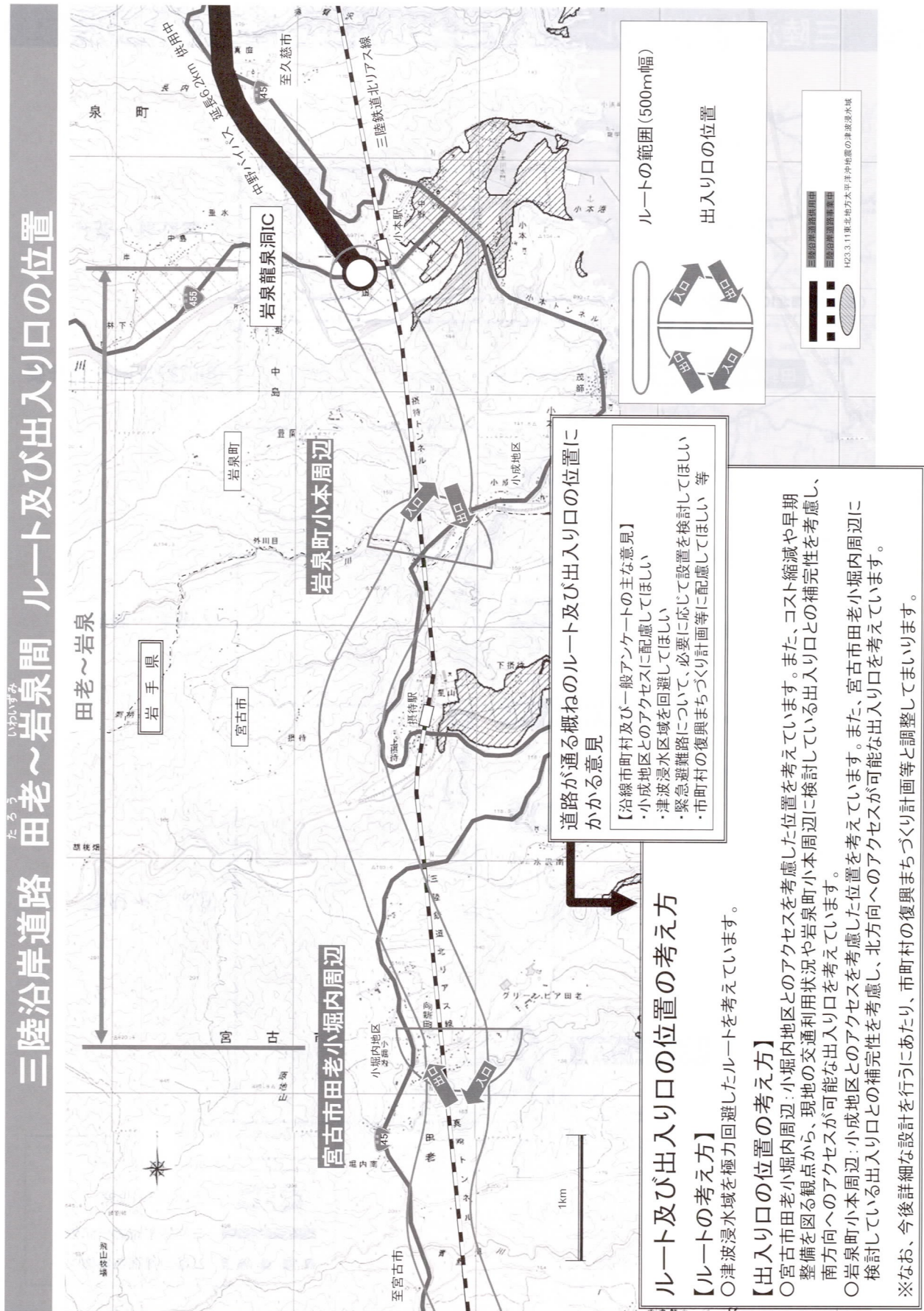
平成24年3月4日、町民会館で小本地域復興促進町民大会が開催され、約850人が参加して、三陸縦貫道路の早期完成と、未整備区間の多い町内の国県道、幹線町道など、社会基盤整備の促進を図っていく必要性を確認し、小本地域の復興を岩泉町全体の課題としてとらえ、「全町民が心をつ」にして、復興に対する決意を新たにし、この震災からの復興を成し遂げるとともに、災害に強い、豊かな自然に恵まれた新しい岩泉町の再生・振興を図ることを決議しました。



復興町民大会

三陸沿岸道路のルート及び出入り口の位置 位置図(3/4)





放射能の測定値

測定施設	測定日	施設平均測定値 (マイクロシーベルト/時)
岩泉小学校	8月24日	0.089
岩泉小学校(地上5cm)	8月24日	0.101
二升石小学校	8月24日	0.069
大川小学校	8月24日	0.064
浅内小学校	8月24日	0.071
釜津田小学校	8月24日	0.086
小川小学校	8月25日	0.080
門小学校	8月25日	0.067
中沢小学校	8月25日	0.070
国見小学校	8月25日	0.078
安家小学校	8月25日	0.070
有芸小学校	8月26日	0.063
小本小学校	8月26日	0.072
小本小学校大牛内分校	8月26日	0.057
岩泉中学校	8月26日	0.070
大川中学校	8月24日	0.065
釜津田中学校	8月24日	0.068
小川中学校	8月25日	0.077
小本中学校	8月26日	0.075
いわいずみこども園	8月26日	0.057
大川にこにこ保育園	8月24日	0.065
釜津田保育所	8月24日	0.070
小川保育園	8月25日	0.069
褰綿児童館	8月25日	0.070
小本保育園(小本婦人の家)	8月26日	0.079
岩泉町民会館	8月26日	0.102
いずみ公園	8月26日	0.072
B & G 海洋センター	8月26日	0.091
岩泉球場	8月26日	0.051
龍泉洞	8月25日	0.072



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会—間伐材に寄与した紙—」を使用しています。